

2021年度 グローバル人材育成プログラム科目一覧

グローバル人材育成プログラム科目	担当者	開講場所	開講期	曜日	時限	教室	単位数	配当年次	備考	
留学準備科目群										
	留学のススメ	仲谷　ちはる	和泉/生田	春	火	4	和泉キャンパス　メディア棟：M305 生田キャンパス　中央校舎：0308	2	1	この授業はオンライン授業として実施します。受講にあたっては、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。なお、和泉及び生田キャンパスにおいては、教室欄に記載の教室を受講用教室として、該当の時限は利用できます。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
	日本社会・文化理解講座	仲谷　ちはる	和泉/生田	秋	火	4	和泉キャンパス　メディア棟：M305 生田キャンパス　中央校舎：0308	2	1	この授業はオンライン授業として実施します。受講にあたっては、視聴端末及び通信環境等は各自で準備してください。なお、和泉及び生田キャンパスにおいては、教室欄に記載の教室を受講用教室として、該当の時限は利用できます。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
	東南アジア理解講座	タンシリトンチャイ、ウィライラック	駿河台/和泉/生田/中野	春	水	4	駿河台キャンパス　グローバルフロント：404B 和泉キャンパス　第一校舎：506 生田キャンパス　中央校舎：0610 中野キャンパス　高層棟：206	2	1	この授業はタイとの遠隔授業として実施します。定員は各15名です。 履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題（ショートエッセイ）の内容により、履修者を決定しますので、初回授業に必ず出席してください。 教室欄に記載の教室を受講用教室として、該当の時限は利用できます。詳細はOh-o!Meijiのクラスウェブをご確認ください。
			駿河台/和泉/生田/中野	春	木	4	駿河台キャンパス　グローバルフロント：404Q 和泉キャンパス　メディア棟：M706 生田キャンパス　中央校舎：0610 中野キャンパス　高層棟：206			
海外留学科目群										
	海外テーマ特化型研修	タンシリトンチャイ、ウィライラック	ベトナム	夏期集中		—	2	1	ホーチミン市国家大学人文社会科学大学	
		仲谷　ちはる	アメリカ	秋学期集中		—			カリフォルニア大学デービス校コミュニケーション文化コース	
		仲谷　ちはる	アメリカ	秋学期集中		—			カリフォルニア大学デービス校英語サイエンスコース	
		仲谷　ちはる	アメリカ	秋学期集中		—			カリフォルニア大学デービス校英語グローバルビジネスコース	
		仲谷　ちはる	アメリカ	夏期集中		—			スタンフォード大学：American Language and Culture: Silicon Valley	
		仲谷　ちはる	アメリカ	夏期集中		—			ペンシルベニア大学：The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program	
		仲谷　ちはる	イギリス	夏期集中		—			ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ異文化理解プログラム	
	単位認定型留学	菊池　端夫	—	夏期・秋学期集中		—	2	1		
	海外語学研修（英語）	水倉　亮	アメリカ	秋学期集中		—	2	1	ワシントン大学	
		横川　綾子	オーストラリア	秋学期集中		—			アデレード大学	
		水倉　亮	カナダ	秋学期集中		—			ユーコン大学	
		水倉　亮	カナダ	秋学期集中		—			ブリティッシュ・コロンビア大学	
		水倉　亮	カナダ	秋学期集中		—			ビクトリア大学	
		横川　綾子	オーストラリア	秋学期集中		—			モナシュ大学	
		横川　綾子	ニュージーランド	秋学期集中		—			オークランド大学	
		横川　綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中		—			エンデラン大学3週間	
		横川　綾子	フィリピン	夏期・秋学期集中		—			エンデラン大学6週間	
		横川　綾子	日本国内	秋学期集中		—			ペンシルベニア大学ELP（国内実施）	
	海外語学研修（ドイツ語）	横川　綾子	オーストリア	夏期集中		—	2	1	ウィーン大学	
	海外語学研修（フランス語）	横川　綾子	フランス	夏期集中		—	2	1	リヨンカトリック大学	
	海外語学研修（スペイン語）	水倉　亮	スペイン	秋学期集中		—	2	1	バルセロナ自治大学	
	海外語学研修（中国語）	水倉　亮	中国	秋学期集中		—	2	1	北京大学	
	単位認定型短期留学（語学）	菊池　端夫	—	夏期・秋学期集中		—	1	1		
	単位認定型留学（語学）	菊池　端夫	—	夏期・秋学期集中		—	2	1		
	実習科目群									
		短期海外実習	タンシリトンチャイ、ウィライラック	タイ	秋学期集中		—	1	1	東南アジアにおける2週間ボランティア
			仲谷　ちはる	台湾	秋学期集中		—			Cross-Cultural Camp
			タンシリトンチャイ、ウィライラック	ベトナム	秋学期集中		—			Study Tour
仲谷　ちはる			アメリカ	秋学期集中		—	Exploring Social Innovation			
単位認定型短期海外実習		菊池　端夫	—	夏期・秋学期集中		—	1	1		
海外実習		タンシリトンチャイ、ウィライラック	タイ	秋学期集中		—	2	1	東南アジアにおける4週間インターンシップ	
		仲谷　ちはる	アメリカ	夏期集中		—			アメリカインターンシップ（グローバルキャリアプログラム）	
		仲谷　ちはる	アメリカ	夏期集中		—			アメリカインターンシップ（マーケティング型ビジネス体験プログラム）	
		タンシリトンチャイ、ウィライラック	ベトナム	夏期・秋学期集中		—			ベトナムインターンシップ	
		仲谷　ちはる	オーストラリア	夏期集中		—			オーストラリアインターンシップ	
単位認定型海外実習		菊池　端夫	—	夏期・秋学期集中		—	2	1		
長期海外実習		仲谷　ちはる	その他	秋学期		—	8	2	国連ユースボランティア・プログラム 長期海外実習，海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また，履修する場合，当該学期に他の科目を履修することはできません。	
海外実習課題研究		仲谷　ちはる	その他	秋学期		—	4	2	国連ユースボランティア・プログラム 長期海外実習，海外実習課題研究は同時に履修することが条件となります。 また，履修する場合，当該学期に他の科目を履修することはできません。	

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
留学のスズメ	1～4年	春学期	2単位	和泉	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 《概要 (Course Summary)》 本講座では、国際的に活躍する講演者たちが自身の留学体験や海外での勤務経験をもとに、留学の意義や留学が自身の人生にもたらした変化などについて講演し、受講者は講演者の経験した実例をもとに、受講者の留学に対する意識を高めていくことを目的としている。さらに、カルチャーショックや逆カルチャーショックなど、留学体験から派生する課題について議論し、異文化適応能力の意義についても学んでいく。 《到達目標 (Course Objectives)》 学生は本講座を通じて、海外留学に対する明確な目的や目標を持つことの重要性を認識し、海外に目を向け、異なるバックグラウンドを持つ人々との交流や海外生活での学びに強い意欲を持つとともに、短期留学や長期留学等の海外留学に挑戦する人材として必要になる素養を身に付けることを到達目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	4/13	イントロダクション 海外留学の意義	仲谷 ちはる		
2.	4/20	海外での‘Take & Give’の実体験 ～ ICTの時代における留学の意義 ～	森住 衛 (大阪大学・桜美林大学名誉教授)		
3.	4/27	English Study Methods to Prepare for Your Study Abroad	安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師 兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)		
4.	5/11	「ありがとう」を言わない人々との出会い ～ 人生を変えたオーストラリア先住民との生活 ～	坪田 清 (和洋女子大学教授)		
5.	5/18	2020年、2021年で大きく変化した世界情勢に自分をどう適応させるのか？「バーチャル国際化時代」に積極的に取り組みましょう！	ジャーマン・ルース・マリー (株式会社 ジャーマン・インターナショナル代表取締役)		
6.	5/25	海外留学がもたらす人生への影響～異文化での学び～	中村 八千代 (特定非営利活動法人ユニカセ・ジャパン理事長)		
7.	6/1	第2回～6回振り返り	仲谷 ちはる		
8.	6/8	留学のための異文化理解 ～ 違いを認め、尊重し合う社会を目指して ～	吉野 康子 (順天堂大学准教授)		
9.	6/15	海外で学ぶ・働くことの意義	高城 宏行 (玉川大学准教授)		
10.	6/22	第8回・9回振り返り及び海外留学の方法と選び方	仲谷 ちはる		
11.	6/29	「自文化」理解の重要性	藤吉 大介 (東京実業高等学校教諭)		
12.	7/6	日本語で世界とつながろう！～日本語教育の現場から～	二瓶 知子 (明治大学国際連携機構特任准教授)		
13.	7/13	第11回・12回振り返り及び海外留学における安全対策と危機管理について	仲谷 ちはる		
14.	7/20	まとめ	仲谷 ちはる		

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)
本講座とあわせて、『日本社会・文化理解講座』(秋学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)
国際交流ラウンジでの国際交流や留学に関する情報収集を積極的に行うこと、留学相談や英語学習のアドバイジング制度の利用を強く勧める。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
Benson, P., Barkhuizen, G. Boudcott, P., & Brown, J. (2013). <i>Second Language Identity in Narrative of Study Abroad</i> . Springer.
『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社)
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価を行う。
(1) 授業における貢献度：40%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) リアクションペーパー：30%
※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。
(3) 期末レポート：30%
※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。
8 その他 (Other)
他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。
また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
日本社会・文化理解講座	1～4年	秋学期	2単位	和泉	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives)					
《概要 (Course Summary)》					
海外留学に際し、改めて広く日本について考え、理解するための講座である。日本のことを英語や留学先の言語で上手く説明できないことは、語学力の問題だけではなく、日本文化や日本社会についてきちんと理解していないことが原因の場合もある。本講座では、国内外で活躍する講演者たちが自身の専門分野をもとに、日本文化や日本事情について講演し、受講者の日本の社会や文化に関する知識を深めていくことを目的としている。					
《到達目標 (Course Objectives)》					
本講座では、文化のみではなく、文学、宗教、政治、経済等の様々なテーマについて扱い、日本について海外に発信できるための知識を得ることを目指す。					
2 授業内容 (Course Contents)					
1.	9/21	イントロダクション 日本社会・文化を学ぶ意義		仲谷 ちはる	
2.	9/28	アニメーションにおける表現の基礎、応用		板野 一郎 (株式会社グラフィニカ クリエイティブアドバイザー)	
3.	10/5	日本語教師の立場から見た国際事情		西 厚子 (元東京家政大学グローバル教育センター非常勤講師)	
4.	10/12	英語で説明するニッポン～まずは小さなおもてなしから始めよう～		安河内 哲也 (東進ハイスクール英語講師 兼一般財団法人 実用英語推進機構代表理事)	
5.	10/19	第2回・3回・4回の振り返り		仲谷 ちはる	
6.	10/26	個性的であれ！寅さん人生も悪くない		川崎 つぶら (特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター職員)	
7.	11/9	ニューノーマルをどう生きるのか？どう活かすのか？ パーチャル国際化への対応力をアップしましょう！		ジャーマン・ルース・マリー (株式会社 ジャーマン・インターナショナル代表取締役)	
8.	11/16	日本の強みを異文化で活かす		中村 八千代 (特定非営利活動法人 ユニカセ・ジャパン理事長)	
9.	11/30	第6回・7回・8回の振り返り		仲谷 ちはる	
10.	12/7	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション (1)		三遊亭 竜楽 (落語家)	
11.	12/14	国際派落語家が語るオンライン時代のコミュニケーション (2)		三遊亭 竜楽 (落語家)	
12.	12/21	太神楽とは何か ～日本のおめでたい文化を探る～		鏡味 味千代 (太神楽師)	
13.	1/11	社会とことば～日本語教育の視点から～		二瓶 知子 (明治大学国際連携機構 特任准教授)	
14.	1/18	まとめ		仲谷 ちはる	
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)					
本講座とあわせて、「留学のススメ」(春学期 火曜日4限)を履修することを強く勧める。 教科書は特に定めないが、参考書を読むことを推奨する。					

4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)
授業中に配布する資料や参考書に目を通し、予備知識を得ておくこと。また、各回授業の復習として、講義内容や討論をもとにした振り返りのレポート (リアクションペーパー) を毎週作成すること。
5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)
『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修 (IBC パブリッシング)
『グーグル、ディズニーよりも働きたい『教室』』松田悠介 著 (ダイヤモンド社)
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価を行う。
(1) 授業における貢献度：40%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) リアクションペーパー：30%
※授業内容や討論をもとにした振り返りのレポートを毎週作成すること。
(3) 期末レポート：30%
※本講座で学んだことをもとに、レポートをまとめること。
8 その他 (Other)
他人のレポートやオンライン上の情報をそのままコピーして提出することがないように注意すること。
また、病気やその他のやむを得ない事由により、授業当日に課題の提出ができない場合、事前に受け付ける。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 (タイの言語と文化)	1～4年	春学期	2単位	駿河台・和泉・ 生田・中野	タンシリトンチャイ、ウィライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、そうした日本とアジアの懸け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。 本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。					
2 授業内容 (Course Contents) - イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 - あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 - タイ人の自己紹介 - タイ人の方向感覚 - タイ人と日本人の意見・感情の表現 - まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション - 中間テスト、タイの若者のライフスタイル - タイおよびアセアン諸国の食文化 - タイ人のコミュニケーション方法 - 日常会話におけるタイ人の自然な口頭表現運用 - まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション - タイ人の経験・願望の表現 - タイ文字 - a: 総まとめ、b: 試験					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) 本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。 また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。					
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 事前に Oh-ro! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。 また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参					

考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。	
5 教科書 (Textbook)	特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)
6 参考書 (Reference)	『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店) 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂) 『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)	・平常点 20% (クラス活動 10%、勉学態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間テスト 25% ・試験 35%
8 その他 (Other)	本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。 この授業はリアルタイム配信型のオンライン授業として春学期の水曜・4時限に実施し、全てのキャンパスにおいて受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末及び通信環境等は各自で準備をすること。なお、各キャンパスにおいては、次の教室を受講用教室として、該当の時限は利用できる。駿河台キャンパス GF404B 教室、和泉キャンパス第一校舎 506 教室、生田キャンパス中央校舎 0610 教室、中野キャンパス高層棟 206 教室

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
東南アジア理解講座 (タイの言語と文化)	1～4年	春学期	2単位	駿河台・和泉・ 生田・中野	タンシリトンチャイ、ウィライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) いまや日本では、業種業態を問わずアジアとの関係が緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。特にタイは、日系企業が多数進出していることにも見られるとおり、日本とアジアを結ぶ重要な要の国である。こうした状況の下、ビジネスパーソン、製品開発者、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野において、現地の言語や文化に通じ、日本とアジアの架け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、そうした日本とアジアの懸け橋たる実務型リーダーとして将来活躍することを目指し、特にタイの言語と文化について基礎的理解を身に付けることを目標とするものである。各回の講義では、タイ特有の文化及び社会を講義し、その文化や社会の背景に基づくコミュニケーション方法も紹介する。また、本講座で得た知識や情報などを自国の言語や文化と比較して類似点や相違点を考えることで理解を深める。 本講座の目標は、タイ語会話の基礎となる発音の知識やタイの文化・社会に基づくコミュニケーション方法を身につけることにある。本講座終了時には、履修者は、上述3つの基本とタイ語の基本的な文法を身につけると同時に、基本的な挨拶・自己紹介ができるようになり、また、時間、モノの位置関係を示したり、意見・感情、経験、願望などを表したりできることが期待されている。					
2 授業内容 (Course Contents) 1. イントロダクション、タイ及びタイ語の概要 2. あいさつから見たタイ文化、アセアン諸国の紹介 3. タイ人の自己紹介 4. タイ人の方向感覚 5. タイ人と日本人の意見・感情の表現 6. まとめ、異文化理解の観点からタイを見るセクション 7. 中間テスト、タイの若者のライフスタイル 8. タイおよびアセアン諸国の食文化 9. タイ人のコミュニケーション方法 10. 日常会話におけるタイ人の自然な口頭表現運用 11. まとめ、異文化理解の観点からタイ社会と生活を見るセクション 12. タイ人の経験・願望の表現 13. タイ文字 14. a: 総まとめ、b: 試験					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) 本講義は日本語で行われるタイ発信の遠隔授業である。初心者でも受講できるが、タイ交流プログラムや交換留学生希望者等は積極的に参加してもらいたい。 また、タイとの遠隔授業となるため、履修定員を15名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、初回授業に実施予定の課題(ショートエッセイ)の内容により、選抜を行う。履修希望者は必ず初回授業に参加すること。					
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 事前に Oh-ro! Meiji クラスウェブにアップロードされた資料、特に語彙の部分を予習し、授業後には学習した語彙、表現、構文などを復習しながら語彙整理表に書いて確認しておくこと。発音及び会話の練習もしておくことと表現力が自然に身につく。 また、授業中に紹介・指摘される日タイにおける文化的・言語的な共通点及び相違点について、配布資料や参					

考書を参照し、復習することで、日本とタイのみならず、グローバルな観点・視野も広げてもらいたい。	
5 教科書 (Textbook)	特に定めない。(講師によるプリントや資料を配布予定)
6 参考書 (Reference)	『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著 (明石書店) 『デイリー日タイ英・タイ日英辞典』宇戸清治 監修 (三省堂) 『今すぐ話せるタイ語 入門編』水野潔 著 (東進ブックス)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)	・平常点 20% (クラス活動 10%、勉強態度 5%、表現力 5%) ・課題 20% ・中間テスト 25% ・試験 35%
8 その他 (Other)	本講義の受講をきっかけにタイないし東南アジアへの関心を高め、在学中に同地域へ留学するなどして、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして活躍することを目指してもらいたい。 この授業はリアルタイム配信型のオンライン授業として春学期の木曜・4時限に実施し、全てのキャンパスにおいて受講が可能である。受講にあたっては、視聴端末及び通信環境等は各自で準備をすること。なお、各キャンパスにおいては、次の教室を受講用教室として、該当の時限は利用できる。駿河台キャンパス GF404Q 教室、和泉キャンパス第一校舎 M706 教室、生田キャンパス中央校舎 0610 教室、中野キャンパス高層棟 206 教室

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 本講座は、アジア・ASEANに関する基本的知識や実戦的な英語力の習得を目標に、ベトナムを代表する名門校、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学において短期研修を行うものである。現在、日本企業から非常に注目されているベトナムにおける約3週間の短期研修と、日本における事前・事後の学習によって、ベトナムを中心とするASEAN地域の政治経済、社会、文化等への基本的・実戦的理解を深める。 日本とアジアをつなぐ「実務型リーダー」として将来、メーカー、商社、金融機関など実社会で活躍するためのスキルを習得し、アジアから日本と世界を展望するグローバルな視野を養う。同時に、日常の学習や実社会で役立つ実戦的な英語力を身に付けることを目指す。					
2 授業内容 (Course Contents) 【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 アジア・ASEANの概要を日本経済・日本企業の戦略と関連付けながら学ぶ。現地の短期研修について学習する内容を概観するとともに、渡航前後の留意事項、異文化適応、現地での安全対策などを理解する。またレポート課題の内容・期限についても説明する。 【短期研修】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 (ア) 派遣先教育機関 ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学 (イ) 海外テーマ特化型研修の期間および日程 2021年8月下旬～9月中旬(予定) (ウ) ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学における学習内容 授業内容は、ベトナムの文化、経済、社会、ベトナム語入門講座で構成されています。授業では、フィールドトリップ等を通じてベトナムの生活・文化等に触れる機会も設けます。 また、課外授業として、文化イベントなどの活動を通じたベトナム国家大学の学生との交流も企画しています。 【最終回(帰国後):事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 短期研修の内容補足及び本講座の最終総括をおこなう。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (ア) 受講定員 受講定員15名(最少催行人数10名) ※ 受講希望者が定員を超える場合には、事前に提出する応募書類に基づき選考する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。 ※ 最少催行人数に満たない場合は催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (イ) 履修要件 TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) いずれか以上に相当する英語力を有すること。 9月卒業予定の学部生(早期卒業含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。					

(ウ) 費用 短期研修参加費として約25万円程度(現地研修費, 滞在費, 航空運賃, ビザ取得費を含む)の負担が必要。参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 費用を含むプログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。 (エ) その他 所属学部・学年に拘らず、意欲のある学生の受講を歓迎する。 また、日頃から新聞記事やニュースなどに触れ、アジアに関する現実の動きに関心を持ち、講座内容と関連付けて考える習慣を身に付けてほしい。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review) 留学の成果は事前準備で決まるので、教科書のほか、下記「6 参考書」の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』(明石書店, 2012) 『ASEANを知るための50章』(明石書店, 2015) 『図解 ASEAN の実力を読み解く:ASEANを理解するのに役立つ46のテーマ』(東洋経済新報社, 2014)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価を行う。 (1) 事前・事後学習への貢献度 (10%) (2) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (20%) (3) 研修校における評価 (70%)
8 その他 (Other) 本講義の受講をきっかけにアジアへの関心を高めると同時に、英語力の向上を目指す。さらに卒業後は社会人としてアジア及び日本で活躍するため、メーカー、商社、金融機関などで、身に付けた実戦的な知識と能力を役立ててほしい。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 Communication and Culture)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ 事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 参加者は「コミュニケーションと文化」をテーマとした専門授業を受講するほか、言語コミュニケーション能力の向上のための実践的トレーニングを受ける。具体的には、Intercultural Research Project、U.S. Society and Culture、Listening and Pronunciation、Everyday Expression and Idioms の4つの授業を受講する。多文化社会である米国の現状と異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このコースにはカリフォルニア大学デービス校の学生プログラム・アシスタント (PA) が参加しており、週1回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化適応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。 参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の文化の多様性について学び、異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける。また、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。プログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 ①：本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。 ②：カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。 ③：留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。 (2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 Communication and Culture) ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関 カリフォルニア大学デービス校 派遣日程 2022年2月中旬から2022年3月中旬＜予定＞ 授業内容 下記の集中講義を受ける (週20時間)。また、最終日にテストを行う。 ①Intercultural Research Project ②U.S. Society and Culture ③Listening and Pronunciation ④Everyday Expression and Idioms (3) 事後学習 (全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。					

本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、成果分析の手法を学ぶ。また、帰国時までに各自が最終レポートを提出する。
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-ri!Meiji システムで通知する) (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。3月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 短期研修参加費として約66万円程度 (滞在費、航空運賃、現地交通費を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ) 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あざ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 最終レポートの評価 (20%) (3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)
8 その他 (Other) 本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ 事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 参加者は理工系英語に特化した専門授業を受講するほか、実践的コミュニケーション能力の向上のためのトレーニングを受ける。具体的には、Hot Topics in Science and Technology、Intercultural Research Project、Listening and Pronunciation、Introduction to Entrepreneurship の4つの授業を受講する。また、アメリカ最先端の科学技術分野の現状を学ぶため、実際にカリフォルニア州にある企業や研究所を訪問する。米国における科学技術の現状とビジネス社会への展開事例を学ぶとともに、実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このコースにはカリフォルニア大学デービス校の学生プログラム・アシスタント (PA) が参加しており、週1回のディスカッション・クラスにおいて授業内容や課題についてのフォローを受けることができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。 参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の科学技術とビジネス展開の現状について学ぶ。また、文化の多様性について学び、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。プログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 ①：本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。 ②：カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。 ③：留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。 (2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Science and Technology) ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関 カリフォルニア大学デービス校 派遣日程 2022年2月中旬から2022年3月中旬＜予定＞ 授業内容 下記の集中講義(週20時間)を受ける。また、最終日にテストを行う。 ① Hot Topics in Science and Technology ② Intercultural Research Project ③ Listening and					

Pronunciation ④ Introduction to Entrepreneurship 上記以外に、最先端の科学技術を活用している企業や研究所を訪問する。 (3) 事後学習 (全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、成果分析の手法を学ぶ。また、帰国時までに各自が最終レポートを提出する。
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 550点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有すること。3月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 短期研修参加費として約68万円程度(滞在費、航空運賃、現地交通費を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ) 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 最終レポートの評価 (20%) (3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)
8 その他 (Other) 本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Global Business)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ 事前学習において、異文化理解・異文化間コミュニケーションに関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 参加者は「グローバルビジネス」をテーマとした専門授業を受講するほか、異文化マネジメント力の向上のための実践的トレーニングを受ける。具体的には、Business Communications Skills、Case Studies in Global Business、Intercultural Business Research Project、Hot Topics in Global Business の4つの授業を受講する。また、Introduction to Regional Business and Industryの授業では、デービス市の現地企業の経営者による講義や企業訪問が含まれている。さらに、ビジネスの場における実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。週1回のHot Topics in Global Businessの授業において、カリフォルニア大学デービス校の現役学生を交えたディスカッションを行い、会話力の強化を図ります。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッション・プレゼンテーションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。 参加者は各自が有する英語能力スコアの向上を目指すとともに、米国の文化の多様性について学び、異なる文化を尊重する基本的姿勢を身につける。また、英語圏の高等教育機関において求められる能動的な学習態度・姿勢について理解を深めることを目標とする。現地学生プログラム・アシスタント (PA) の配置などにより、現地学生や地域社会との交流活動に参加し、異文化理解を促進する。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 ①：本講座全体のイントロダクション。国際的なキャリア形成を目指すうえで海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。 ②：カリフォルニア大学デービス校の歴史やデービスの街について知り、日本との学習環境の相違点や共通点を学ぶ。また、授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行う。 ③：留学生活における注意点や渡航時の留意事項、現地での安全対策などを理解する。また、最終レポートの作成などについて説明を行う。 (2) 現地研修 (カリフォルニア大学デービス校 English for Global Business) ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関 カリフォルニア大学デービス校 派遣日程 2022年2月中旬から2022年3月中旬＜予定＞ 授業内容 下記の集中講義(週20時間)を受ける。最終日にテストを行う。 ① Business Communication Skills ② Intercultural Business Research Project ③ Hot Topics in Global Business ④ Case Studies in Global Business					

上記以外に、デービス市の地元企業訪問や、経営者やビジネスの専門家による講義を受ける日が設けられている。また訪問に先立ち事前講習とフォローアップのための授業(各50分)を実施する。
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 カリフォルニア大学デービス校での3コース合わせて40名。受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 550点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3)以上に相当する英語力を有すること。3月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 短期研修参加費として約68万円程度(滞在費、航空運賃、現地交通費を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。(オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。)
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SBクリエイティブ) 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あざ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度 (10%) ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 最終レポートの評価 (20%) (3) カリフォルニア大学デービス校における評価 (70%)
8 その他 (Other) 本講座における中心的課題の一つに、自らの海外学習の成果を分析し、キャリア形成のために自分の強みと今後の課題を把握することがある。この目的のために、学習体験の記録をとるなどし、自己の学びの分析に役立ててもらいたい。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (スタンフォード大学 American Language & Culture: Silicon Valley)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ スタンフォード大学内にオフィスを構える米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia)とスタンフォード大学との共催によるスタンフォード大学サマーセッション公式科目です。4 週間のプログラムでは、英語コミュニケーション力向上のための授業のほか、アメリカ文化についての講義 (社会学専攻の大学院生インストラクターによる講義) やシリコンバレーの企業訪問、そしてアメリカ文化に関する研究調査が含まれます。研究調査では、学生自身で課題設定を行い、文献調査やインタビューを行いながらレポートにまとめ、プレゼンテーションを行い、フィードバックを得るといった一連のプロジェクトを進めます。 海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。 このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【グローバル教養型】であり、グローバル人材として、異なる文化・価値観を尊重する基本的な姿勢・教養を身につけることを目指しています。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ 到達目標は以下のとおりとする。 ● 「自ら判断し現場に入って物事を動かす「現場力」を持った人材となる。 ● 米国の多民族国家、多文化社会の現状を学ぶことを通じて、異なる文化・価値観を尊重する基本的姿勢を獲得する。 ● 特定の課題について、グローバルな視点でより深く認識できるようになる。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。 また、英文レポートの書き方の基本を学びます。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確にします。 (2) 現地研修 (スタンフォード大学 American Language & Culture: Silicon Valley) ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関：スタンフォード大学 派遣日程：2021 年 8 月～2021 年 9 月 (予定) ※最終的な日程は募集要項を確認すること。 授業内容：スタンフォード大学の教員による英語授業及び研究指導、スタンフォードやサンフランシスコでの課外活動、シリコンバレーにある企業を訪問、非営利団体でのボランティア活動、社会問題に対する知識を深めるためのパネルセッションやワークショップに参加。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外の集中講義で学んだ成果を、レポートに作成するとともに、プレゼンテーションを行います。 3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 受講定員 5 名程度 (最少催行人数 1 名)					

※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP 含む) 550 点、 TOEFL iBT 55 点、TOEFL ITP 490 点、IELTS 5.5 以上 9 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 プログラム参加費として、120 万円程度 (滞在費、航空運賃、食費を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行うこと。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行うこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013 年) 『Ten Tips for Better Business writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html 『BBC Learning English』 http://www.bbc.co.uk/learningenglish
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価をおこないます。 (1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%) (2) スタンフォード大学による評価 (70%) (3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%) (4) 帰国後に提出するレポート (10%)
8 その他 (Other) 将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院 (特に英語圏) への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とする。 宿舎は、スタンフォード大学学生寮の予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (ペンシルベニア大学 The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) アメリカ合衆国・ペンシルベニア大学 College of Liberal and Professional Studies が提供する留学生向けプログラム The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program (PSE) プログラムを受講する。 3 週間のプログラムでは、Strategic Planning、Persuasive Communication そして Leadership & Teambuilding の授業を受講し、商品開発・市場調査・マーケティングなど、ビジネスの様々なシーンで活用できるコミュニケーションスキルを、グループワーク、プレゼンテーション、ウェブデザイン、模擬クラウドファンディングなどの体験型学習を通して集中的に学びます。最終的には、ビジネスの場だけでなく、英語を利用したコミュニケーションの場において、自分の意見や考えを効率的かつ効果的に相手へ伝えるスキルの修得を目指します。課題活動も充実しており、フィラデルフィア美術館や企業訪問が予定されています。 海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、日本人のビジネスコミュニケーションとグローバル社会におけるビジネスコミュニケーションの違い、ビジネスの場面における異文化間コミュニケーションの基本を学びます。また、事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。 このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【ビジネス・キャリア型】であり、世界における経済・ビジネスの実例や現状を学ぶことを通じて、経済・ビジネスに係る見識を深めるとともに、「グローバルな環境で働くこと」についてのキャリア・ビジョンを明確にすることを目指しています。 到達目標は以下のとおりとする。 ● ビジネスの現場における効果的な交渉術やミーティングの方法を理解している。 ● ビジネスの現場で求められる文書を英語で書くことができる。 ● ビジネスに関する話題を英語で理解し、自分の考えを相手に伝えることができる。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 日本人のビジネスコミュニケーションとグローバル社会におけるビジネスコミュニケーションの違い、ビジネスの場面における異文化間コミュニケーションの基本を学びます。また、英文レポートの書き方の基本を学びます。あわせて、各自の目標設定及び課題を明確にします。 (2) 現地研修 (ペンシルベニア大学 The Persuasive Strategies for Entrepreneurship Program) ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関：ペンシルベニア大学 派遣日程：2021 年 8 月～2021 年 9 月 (予定) 授業内容：Strategic Planning、Persuasive Communication そして Leadership & Teambuilding の授業と ペンシルベニア大学で教鞭を執る教員およびビジネスリーダーによる 4 回の講義、2 回の企業訪問が予定されています。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外の集中講義で学んだ成果を、レポートに作成するとともに、プレゼンテーションを行います。 3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements)					

(1) 受講定員 15 名程度 (最少催行人数 10 名) ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-ro! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP 含む) 550 点、TOEFL iBT 57 点、TOEFL ITP 490 点、IELTS 5.5 以上 9 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません。(本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 プログラム参加費として、約 62 万円程度 (滞在費、航空運賃などを含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 研修先国・地域の文化、生活習慣、社会事情等の基礎知識に得るために、各自事前調査を行ってください。また、渡航するまでにさらに語学力の向上を図るため、自主学習を行ってください。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社、2013 年) 『日本人の知らない ワンランク上のビジネス英語術』ウィリアム・A・ヴァンス 著 (神田房枝監訳) (CCC メディアハウス、2013 年) 『一流は、なぜシンプルな英単語で話すのか』柴田真一 著 (青春出版社、2016 年) 『Ten Tips for Better Business Writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%) (2) ペンシルベニア大学による評価 (70%) (3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%) (4) 帰国後に提出するレポート (10%)
8 その他 (Other) 将来国際的なビジネス環境で働くことに関心のある学生、長期留学 (特に米国) を目指す学生や将来海外の大学院進学 (特に米国) を目指す学生を履修対象とします。 宿舎は、ペンシルベニア大学が指定する学生寮の予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外テーマ特化型研修 (ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ異文化理解プログラム)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 《概要 (Course Summary)》 ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジが明治大学の学生向けにカリキュラムを設計した約4週間のプログラムです。経験豊富な講師陣によるユニークな専門科目授業(セミナー)を受講することができます。また、英語授業では、海外の大学(特に英語圏)で学ぶために必要な、アカデミックイングリッシュを、リサーチプロジェクトなどを通して実践的に学びます。 授業・課外活動などプログラム全体にアクティブ・ラーニングアプローチを積極的に取り入れており、視察やリサーチプロジェクトなどを通し、現地の人々と交流することで、実践的英語力の向上及びイギリス社会・文化に対する理解力強化を図ります。 海外での集中講義の前後に事前・事後学習を合わせて受講し、海外での学習の効果を高めます。事前学習では、国際的なキャリア形成を目指す上で海外学習が果たす役割について検証し、海外学習のための準備心構え、カルチャーショックを含め、異文化理解・異文化適応に係る基本的な概念を学びます。また、留学先での授業において学習する内容を概観するとともに、各自の目標設定を行います。事後学習では、海外での集中講義で学んだ成果を、レポートの作成およびプレゼンテーションにより確認します。 このプログラムは、海外テーマ特化型研修のうち【テーマ探究型】であり、特定のテーマについて、グローバルな視点でより広く認識し、国際社会への理解を深めることを目指しています。 《到達目標 (Course Objectives)》 到達目標は以下のとおりとする。 ● 海外留学について理解し、より長期の留学に必要な素養を養う。 ● コミュニケーションについての理解を深める。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 事前学習では、派遣先教育機関における専門科目授業(セミナー)受講に必要な語学力(英語4技能)の効果的な学習法、ケンブリッジ大学やイギリスの大学教育に関する基礎知識等について学びます。主にペアワークやグループワーク形式で受講します。 (2) 現地研修 (ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ異文化理解プログラム) ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 派遣先教育機関：ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジ 派遣日程：2021年8月～2021年9月(予定) 授業内容：専門科目授業(セミナー)及び英語学習(アカデミックイングリッシュ)。 セミナーは①ジャーナリズムとイギリスの現代事情 (Journalism and Current Affairs in the UK)、②イギリスの芸術と建築 (Art and Architecture)、③ケンブリッジにおける科学 (Science in Cambridge) の3つのコースから2コースを選択する。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 事後学習では、グループプレゼンテーション形式による、成果発表を行います。発表内容は派遣先教育機関における学修内容、気づき、経験等となります。 成果発表の後、担当教員が派遣先教育機関の教員による評価や講評についてのフィードバックを行うことで、今後の学生生活やより長期の海外留学に必要な素養を養います。					

3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 受講定員 16名程度(最少催行人数10名) ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 ※最少催行人数に満たない場合は、催行を中止するか、研修費用を変更して実施を検討する。 (2) 履修要件 下記いずれかのスコア以上に相当する英語力を有すること。 TOEIC (IP 含む) 550 点、 TOEFL iBT 60 点、TOEFL ITP 490 点、IELTS 5.0 以上 なお、これらの語学スコアを取得していない学生については、担当教員が面談を行い、語学力を測定します。 9月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 プログラム参加費として、80万円程度(滞在費、航空運賃、食費(平日2食、土日1食)を含む)の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparation and Review) 事前学習の予習として、自身の海外留学に関する興味・関心や考えをまとめておき、事前学習で発言すること。 また、事前学習の復習として、渡航前に事前学習の各テーマについて各自知識を深め、渡航中や事後学習の際に、担当教員とディスカッションすること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著(新潮社、2013年) 『Ten Tips for Better Business writing』 http://www.forbes.com/2010/05/03/better-business-writing-leadership-careers-tips.html 『BBC Learning English』 http://www.bbc.co.uk/learningenglish
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価をおこないます。 (1) 事前学習への参加と授業への貢献度 (10%) (2) ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジによる評価 (70%) (3) 事後学習におけるプレゼンテーション (10%) (4) 帰国後に提出するレポート (10%)
8 その他 (Other) 将来、英語圏への長期留学を目指している学生、海外大学院(特に英語圏)への進学を目指している学生、英語による研究調査方法を身に付けたい学生を履修対象とします。 宿舎は、ケンブリッジ大学コーパスクリスティ・カレッジが指定する学生寮の予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学	1 ～ 4 年	夏期/ 秋学期集中	2 単位	その他	菊地 端夫
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary) >> 明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 <<到達目標 (Course Objectives) >> グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) 夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約 4 週間（実学習時間が 1350 分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。 対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。 (2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは 7 月中旬、春期プログラムは 1 月中旬を予定） - 各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 - 入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 - 過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 - 過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 - 夏期プログラムは 9 月卒業の学部生、春期プログラムは 3 月卒業の学部生への単位認定は行えません。 (3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。					
6 参考書 (Reference) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研） 『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）					
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。					
8 その他 (Other) 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、					

またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ワシントン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。 当研修は、ワシントン大学(アメリカ)にて実施される3週間の「Short Term English Program (STEP) Language & Culture」コースに参加し、アメリカ文化を学びながら実用的な英語のコミュニケーション能力を高めることを目的としている。特に発音や語彙力の向上に力を入れている他、午後の課外活動では実際に使える日常的な英語表現を学ぶことができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。 2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地派遣 日程：2022年2月上旬～下旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 「STEP Language & Culture」コースでは、プログラム冒頭に行われるプレイスメントテストに応じて、自身の英語力にあったクラスに参加する。クラスレベルは初級～上級に分かれており、1クラス14～18名の少人数制クラスです。午前中（3時間）は教室で学び、午後はクラスメイトと一緒にフィールドトリップやアクティビティなどの課外活動に参加する。映画や社会見学などを通じてアメリカ文化にも触れながら、実用的な英語を学ぶ。 （3）事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。 3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）定員 25名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修費用として約50万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、					

https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。	
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）	事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook）	特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference）	『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）	以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other）	事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （アデレード大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ≪概要（Course Summary）≫ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解の要諦を概観するとともに、海外学習の準備を行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。 当研修では、アデレード大学（オーストラリア）の英語研修機関 English Language Centre（ELC）にて実施される5週間の「General English for Academic Purpose（GEAP）」コースに参加し、海外大学の学部・大学院レベルの授業を受けるために必要な英語力を養うための入門プログラムであり、大学生として必要な基本的な英語力を高めることができる。 事後学習においては、海外学習の成果を確認し、異文化対応能力の向上をはかる。 ≪到達目標（Course Objectives）≫ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。 2 授業内容（Course Contents） （1）事前学習（全1回×100分） ※日時・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2022年2月上旬～3月中旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 参加者は、1日4時間英語クラスを受講する。月曜日～木曜日のクラスでは、会話・リスニング・読解・筆記・文法および語彙の向上に焦点を当てた内容を学び、ペアワーク・ロールプレイ・ディスカッションなどを通じて理解を深める。金曜日のクラスでは、TOEFL iBTやIELTS等のテスト準備、オーストラリアの社会事情、ビジネス英語など、特に伸ばしたい技能や興味のある分野を選択して学ぶことができる。また、オーディオ教材などを使用し、英語だけでなくオーストラリアの文化や社会への理解を深めることができる。 （3）事後学習（全1回×100分） ※日時・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。 3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）定員 25名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）費用 短期研修参加費として約56万円程度（滞在費・航空運賃・現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review）
・派遣先について事前に調べること。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook）
特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference）
『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdclCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation）
以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other）
事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ユーコン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。 当研修は、ユーコン大学（カナダ）によって本学の学生のために特別に組まれたプログラムであり、英語運用能力向上を図るとともにカナダの生活や文化に関する理解を深めることを目的としたプログラムである。 また、研修2週目以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health（予定）のうち1つを選択）を聴講する。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 《到達目標（Course Objectives）》 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2022 年2月上旬～3月上旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 実践的な英語力を身につけることを目標とするため、特に日常英会話とコミュニケーションの向上に重点を置いた授業を受講する。なお、英語の授業は第2 外国語としての英語教授法の資格を持つユーコン大学の講師が担当する。また、研修2週目以降、現地の学生が受講するクラス（History of Yukon First Nations and Self-Government または Environmental Change and Community Health（予定）のうち1つを選択）を聴講する。 （3）事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）定員 15 名（最少催行人数 10 名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約 52 万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。					

プログラムの詳細については、 https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10 分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習（1 回）の他に、渡航前オリエンテーションを3 回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ブリティッシュ・コロンビア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような語学研修を受ける。 当研修は、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Institute (ELI)にて実施される4週間の「English for the Global Citizen」に参加するプログラムである。English for the Global Citizen コースは、カナダの市民社会、国際性、持続可能性に関するテーマについて学びながら、スピーキング力と流暢さを向上させるプログラムである。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。 2 授業内容(Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 (2) 現地研修 2022 年2月下旬～3月下旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 1週間当たりの授業時間数は約25.5時間となる。午前の授業では、より専門的な語学力養成のためのテーマに沿った授業（Cross-Cultural Communication, Canadian Society 等）が行われ、午後の授業では、グループプロジェクトやプレゼンテーションが中心の授業を受講する。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。 3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少催行人数10名） (2) 履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 短期研修参加費として約55万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 - Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdclCvg - Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider - TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons - News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ - Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ - VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ - CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts - BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 期末レポート（10%） (3) 派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習（1回）の他に、渡航前オリエンテーションを3回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ビクトリア大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、ビクトリア大学（カナダ）の英語研修機関 English Language Centre (ELC)にて実施される 4 週間の「Monthly English」に参加するプログラムである。Monthly English プログラムでは、月曜日から木曜日まで他国からの留学生と共に英語を学び、金曜日や週末に様々なアクティビティに参加し、実践的な英語能力を向上させることを目的としている。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 《到達目標（Course Objectives）》 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2022 年 2 月下旬～3 月下旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 文法やリスニングだけに時間を費やすのではなく、総合的な英語スキルを学習する「コミュニケーション・アプローチ（Communicative Approach）」という言語学習/教授法が取り入れられた授業を受講する。ロールプレイを通して、英語コミュニケーションの練習をするなど、学生がクラスを中心となりアクティビティやディスカッションに積極的に参加することが求められる。 （3）事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）定員 20 名（最少催行人数 10 名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約 49 万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。					

と。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10 分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習（1 回）の他に、渡航前オリエンテーションを 3 回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （モナシュ大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ≪概要（Course Summary）≫ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解の要諦を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、モナシュ大学（オーストラリア）の英語研修機関 Monash University English Language Centre (MUELC)にて実施される5週間の「Monash English」に参加するプログラムである。Monash English プログラムでは、海外の大学・大学院において英語で専門科目を学ぶ際に必要な英語力習得を目的とした English for Academic Purpose を学ぶことができる。 事後学習においては、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。 ≪到達目標（Course Objectives）≫ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 日程：2022年2月上旬～3月中旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 授業時間は1日4時間となる。授業はe-learning化が進んでおり、授業内でもPCを使用する。また、ペアワークやグループワーク等の学生主体の参加型授業では、積極的な姿勢が求められる。授業以外には週15時間の自習が推奨されており、無料でIELTS対策や会話力を高めるワークショップも受講することができる。 （3）事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）定員 20名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約60万円程度（滞在費・航空運賃・現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review) ・派遣先について事前に調べること。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。					

5 教科書 (Textbook)
特に定めない（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある）。
6 参考書 (Reference) 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他 (Other) 事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （オークランド大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ≪概要（Course Summary）≫ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解の要諦を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修では、オークランド大学（ニュージーランド）の英語研修機関 English Language Academy（ELA）にて実施される「General English」コースに4週間参加するプログラムである。General English コースでは、日常生活に必要な英語力を伸ばしたい学生やアカデミック英語コースへ進むための準備が必要な学生のためのプログラムである。 事後学習においては、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。 ≪到達目標（Course Objectives）≫ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な英語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、異文化理解にかかわる基本的な概念を学ぶ。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修日程：2022年2月上旬～3月中旬（予定） ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 プレイズメントテストで、Elementary, Pre-Intermediate, Intermediate, Upper-Intermediate, Advanced の5段階のクラスに分かれ、週20時間の英語クラスを受講する。1日4時間の英語クラスでは、2時間のコアクラスと2時間の選択クラス（Communication Skills, English for IELTS または Business English（予定）などから選択）で構成されている。英語クラスでは、ペアワーク、グループワークなどを通して、リスニング、リーディングスキルのほか、ライティングとスピーキングにおける語彙、流暢性、正確性について総合的に学ぶことができる。 （3）事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）定員 20名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約53万円程度（滞在費・航空運賃・現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） ・派遣先について事前に調べること。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある）。
6 参考書（Reference） 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdclCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ≪概要（Course Summary）≫ 本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン 4 時間＋レベル別グループレッスン 4 時間＝8 時間×3 週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。 ≪到達目標（Course Objectives）≫ 中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルは CEFR A2 レベル（すでに B1 レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後に B1 レベルに達することを目標とする。 ※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150 2 授業内容(Course Contents) 【事前講義】（全 1 回×100 分） ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。 【現地研修】派遣日程：2021 年 8 月上旬～8 月下旬（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 （1）マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日 4 時間行う。Accent Training and Vocabulary Building では、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Box では、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourse では、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。 （2）グループレッスン レベル別に 4～6 人で構成されるグループ毎の授業を毎日 4 時間行う。Oral Communication/Conversational English では、基本的に 90 分を 1 単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発話力を向上させる。Field Work では、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speaking では、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。 （3）異文化理解 College Sit-in では、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉学する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Night と呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末の Field Trip では、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。 （4）学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1 週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。 【事後講義】（全 1 回×100 分） ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。 3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2（TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1（TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking120～150）レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するブレイスメントテストの結果に基づいて行われる。 （2）9 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。					

（3）英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html （4）プログラム参加費として約 28 万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2019 年度春季実施時概算金額） また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ （2）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日 15 分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。 ・「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html 帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html
5 教科書（Textbook） エンデラン大学が作成・配布するテキスト
6 参考書（Reference） 特に指定しない。
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし （2）エンデラン大学による評価（80%） （3）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし
8 その他（Other） （1）プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 （2）現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 （3）現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン 4 時間＋レベル別グループレッスン 4 時間＝8 時間×3 週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルは CEFR A2 レベル（すでに B1 レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後に B1 レベルに達することを目標とする。 ※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150					
2 授業内容(Course Contents) 【事前講義】(全 1 回×100 分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。 【現地研修】派遣日程：2022 年 2 月上旬～2 月下旬（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 (1) マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日 4 時間行う。Accent Training and Vocabulary Building では、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Box では、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourse では、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。 (2) グループレッスン レベル別に 4～6 人で構成されるグループ毎の授業を毎日 4 時間行う。Oral Communication/Conversational English では、基本的に 90 分を 1 単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発話力を向上させる。Field Work では、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speaking では、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。 (3) 異文化理解 College Sit-in では、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉強する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Night と呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末の Field Trip では、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。 (4) 学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1 週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。 【事後講義】(全 1 回×100 分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。					

3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） (1) 履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するプレイスメントテストの結果に基づいて行われる。 (2) 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 (3) 英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibe-global.org/toEIC/test/speaking.html (4) プログラム参加費として約 28 万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2019 年度春季実施時概算金額）また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。 (1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ (2) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日 15 分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。 加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。 ・「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html 帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibe-global.org/toEIC/test/speaking.html
5 教科書（Textbook） エンデラン大学が作成・配布するテキスト
6 参考書（Reference） 特に指定しない。
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。 (1) 受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし (2) エンデラン大学による評価（80%） (3) 講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし
8 その他（Other） (1) プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 (2) 現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 (3) 現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グルーブレッスン4時間＝8時間×6週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。 《到達目標（Course Objectives）》 中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2 レベル（すでにB1 レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1 レベルに達することを目標とする。 ※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150					
2 授業内容(Course Contents) 【事前講義】(全1回×100分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、現地研修での学びを充実させるためのグルーブディスカッションを行う。 【現地研修】派遣日程：2021年8月上旬～9月中旬（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 （1）マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Building では、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Box では、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourse では、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。 （2）グルーブレッスン レベル別に4～6人で構成されるグルーブ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational English では、基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Work では、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speaking では、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。 （3）異文化理解 College Sit-in では、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉学する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Night と呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Trip では、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。 （4）学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測る Weekly Assessment が実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測る Summative Assessment が実施され、その結果は、後日発行される個人の Progress Report に反映される。 【事後講義】(全1回×100分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグルーブディスカッションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）履修要件は特にないが、本プログラムは 渡航前に CEFR A2 (TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110) レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1 (TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150) レベルの学生も参加できるが、グルーブレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するブレイスメントテストの結果に基づいて行われる。 （2）9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログ					

ラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html （4）プログラム参加費として約46万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。 （2019年度春季実施時概算金額） また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ （2）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。 加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。 ・「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html 帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html
5 教科書 (Textbook) エンデラン大学が作成・配布するテキスト
6 参考書 (Reference) 特に指定しない。
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし （2）エンデラン大学による評価（80%） （3）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし
8 その他 (Other) （1）プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 （2）現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 （3）現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （エンデラン大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座では、フィリピン・マニラ中心部に拠点を置くエンデラン大学が明治大学向けに編成した語学研修プログラムを通じて、短期間で集中的に英語発話力を向上させることを主な目的とする。マンツーマンレッスン4時間＋レベル別グループレッスン4時間＝8時間×6週間の集中授業を通じて、英語を「聴く・話す」力を、統合的に養成する。本プログラムでは英語の授業に加え、現地学生との交流や大学の正課授業の見学等を通じて、異文化理解の促進と異文化への適応力の涵養も目指す。 《到達目標（Course Objectives）》 中長期留学とその準備に必要な英語発信力を短期集中で強化しつつ、フィリピンの文化や社会に対する理解を深め、異文化への適応力を高める。本プログラムの主な対象レベルはCEFR A2レベル（すでにB1レベルに達している学生も参加可能）で、プログラム受講後にB1レベルに達することを目標とする。 ※CEFR（ヨーロッパ共通言語参照枠）によるレベル A2: TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110 B1: TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking 120～150					
2 授業内容(Course Contents) 【事前講義】(全1回×100分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 留学の心得や、フィリピンの歴史・文化・社会について概観する。合わせて、現地研修での学びを充実させるためのグループディスカッションを行う。 【現地研修】派遣日程：2022年2月上旬～3月中旬（予定） ※日程および内容は募集要項を確認すること。 （1）マンツーマンレッスン 個人授業用に仕切られたブース内で、エンデラン大学講師とプライベートレッスンを毎日4時間行う。Accent Training and Vocabulary Buildingでは、発話の基礎となる発音と語彙力を鍛える。Chatter Boxでは、様々なトピックについて担当講師と会話をし、実践を通じて英語発話力を向上させる。Academic Discourseでは、アカデミックなトピックを題材に、発信力・対話力を養う。 （2）グループレッスン レベル別に4～6人で構成されるグループ毎の授業を毎日4時間行う。Oral Communication/Conversational Englishでは、基本的に90分を1単位とし、日常生活や社会事象に関する様々なトピックについて、担当講師やクラスメートとのディスカッションやプレゼンテーションといった活動を通じて、実践的な言語使用環境において英語発信力を向上させる。Field Workでは、現地の人々と対話するタスクに取り組むことで、英語発信力と異文化適応力を同時に養成する。Public Speakingでは、ジュスチャーや発声法に気を配りながら、聴衆に分かりやすく自分の意見を伝えるスキルを、様々なタスクを通じて身に付ける。 （3）異文化理解 College Sit-inでは、「ホスピタリティ」・「マネジメント」・「ビジネスと経済」・「調理技術」等、エンデラン大学の正規授業の一部を見学し、非日本語圏の講義スタイルに基づき「英語で」勉強する疑似体験を通じて、異文化への適応力を高める。加えて、Mixer Nightと呼ばれる学内イベントでは、エンデラン大学学生との交流を図り、週末のField Tripでは、フィリピンの文化や歴史を身近に感じながら異文化理解を深める。 （4）学習定着度診断 毎週金曜日に授業時間の一部を使い、1週間の学習の定着度を測るWeekly Assessmentが実施される。講座最終週の金曜日には、プログラム全体の学習内容の定着度を測るSummative Assessmentが実施され、その結果は、後日発行される個人のProgress Reportに反映される。 【事後講義】(全1回×100分) ※開講日程・実施場所は募集要項を確認すること。 現地研修での学びを自己評価し、今後の目標を明確にするためのグループディスカッションを行う。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）履修要件は特にないが、本プログラムは渡航前にCEFR A2（TOEIC L&R 220～545, TOEIC Speaking 90～110）レベルの英語学習者の受講を想定して編成されている。CEFR B1（TOEIC L&R 550～780, TOEIC Speaking120～150）レベルの学生も参加できるが、グループレッスンのレベル分けは、エンデラン大学が実施するブレイス					

メントテストの結果に基づいて行われる。 （2）3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking Test をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを強く勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html （4）プログラム参加費として約46万円（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要となる。（2019年度春季実施時概算金額）また、為替レートの変動等により、参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/shorttermstudy/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 事前・事後学習として、以下の日本語エッセイを作成し、提出すること。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ （2）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ また、学習効率を最大化するため、渡航前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日15分英語を聴く、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。 加えて、フィリピン固有の文化や社会事象についても事前に学習し、異文化適応力を下支えする現地社会に関する基礎知識を備えておくことが強く望まれる。 ・「フィリピン共和国 Republic of the Philippines」(外務省ホームページ) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html 帰国後も継続的に英語発信力を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で「話す」機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking Test 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、到達目標を修正し続けることを勧める。 ・TOEIC® Speaking Test について http://www.iibc-global.org/toEIC/test/speaking.html
5 教科書（Textbook） エンデラン大学が作成・配布するテキスト
6 参考書（Reference） 特に指定しない。
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） プログラム受講前・受講後の日本語エッセイおよびエンデラン大学による評価による総合評価を行う。 （1）受講を希望する理由をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし （2）エンデラン大学による評価（80%） （3）講座で習得した英語技能をテーマにした日本語エッセイ（10%） ※書式指定なし
8 その他（Other） （1）プログラムに参加する学生は、初回および渡航前オリエンテーション（日程は後日通知）に参加すること。 （2）現地では、エンデラン大学学則（服装規定や寮則を含む）に従うこと。違反者には相応のペナルティが課される。 （3）現地滞在中は常に自覚をもって危機管理と体調管理に努め、現地コーディネーターの指示に従うこと。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（英語） （ペンシルベニア大学 ELP）	1 ～ 4 年	秋学期 集中	2 単位	和泉	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座は、海外トップユニバーシティで明治大学の協定校でもあるペンシルベニア大学 English Language Program Programs から和泉キャンパスに講師を招聘し、英語圏への留学に対応できる英語能力を短期集中で養成するプログラムである。 授業は 110 分×2 コマ＋セルフスタディ 1 時間＝約 5 時間×週 5 日×3 週間（過年度実績、今年度の授業時間は募集要項を確認すること）、1 クラス 12～16 人の少人数制で行う。本プログラムは、日本にいながらにしてアカデミックな英語スキルの指導を、オールイングリッシュの環境で受けることのできる貴重な機会であり、「読む・書く」スキルを中心に据えながらも、「聴く・話す」スキルも統合的に向上させることを狙いとする。 《到達目標（Course Objectives）》 英語圏特有の講義スタイルに慣れ、アカデミックな環境で必要となる「聴く・読む・話す・書く」の英語 4 技能を統合的に身に付けることを、本講座の到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) 【事前講義】（全 1 回×100 分） ※開講日時・実施場所は募集要項にて確認すること。 オールイングリッシュで行われる授業に対応するための心構えを会得し、英語によるディスカッションを行う。 【語学研修】開講日程：2022 年 2 月中旬～3 月中旬（予定） ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 （1）Academic Reading & Writing ペンシルベニア大学オリジナル教材で、「読む・書く」スキルを中心に「聴く・話す」スキルも合わせた英語 4 技能を統合的に養成する。 （2）Elective Courses 以下の 6 講座から、明治大学が受講希望者の専攻を考慮の上、指定する講座が開講される（過年度開講実績科目：A ならびに C）。 コンテンツを学びながら、同時に英語技能も向上させる。 A: Communications and Social Media B: Innovation and Technology C: Leadership D: Marketing and Gamification E: Resiliency F: Sustainability なお（1）、（2）ともリーディングおよびライティング課題、フィールドワーク、個人およびグループ単位でのプレゼンテーションが適宜課される。 （3）Self-Study（授業終了後 60 分間） その日に課された課題や授業内容の復習・定着のための自習時間。 【事後講義】（全 1 回×100 分、最終授業終了後） 講座での学びを振り返り、英語によるディスカッションを行う。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）履修要件：プログラム応募時までに、2019 年 12 月以降取得した英語能力試験スコアが、募集要項に示される基準のいずれかに達していること。 ※基準スコアを有しないプログラム参加希望者は、別途ペンシルベニア大学が指定するオンラインテストを受験し、一定の基準を超えることが必要となる。 （2）3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）英語発話力の伸びを客観的数値で測定し、その後の学習に活かすため、TOEIC® Speaking & Writing Tests や TOEFL iBT や IELTS をプログラム参加前と参加後に受験し、取得スコアを比較・分析することを勧める。 ・TOEIC® Speaking & Writing Tests について（IIBC ホームページ） http://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about.html ・TOEFL iBT について（CIEE ホームページ） https://www.cieej.or.jp/toefl/ ・IELTS について（JSAF ホームページ） http://www.jsaf-ielts.japan.com/ （4）プログラム参加費などの詳細は、決定次第、募集要項を確認すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 開講前後に事前・事後学習として、以下の英文エッセイを作成し、提出すること。 （1）受講を希望する理由をテーマにした英文エッセイ ※書式指定なし （2）講座で習得した英語能力をテーマにした英文エッセイ ※書式指定なし					

また、学習効率を最大化するため、開講前に可能な限り英語能力の向上に努めること。具体的には、毎日 15 分英語を聴く、英文記事を読む習慣をつける、会話表現や定型フレーズの音読を習慣的に行う、スカイプ英会話等を利用し英語で「聴く・話す」ことに慣れておく、等の事前学習を強く勧める。特に、英文アカデミック・ライティングの基礎知識を得ておくことは必須である。 講座修了後も継続的に英語技能を向上させるため、スカイプ英会話等を利用して英語で話す機会を確保することや、定期的に TOEIC® Speaking & Writing Tests 等を受験することで自身のスキルを客観的に測定し、自ら設定した到達目標を上方修正し続けることを勧める。 ・TOEIC® Speaking & Writing Tests について（IIBC ホームページ） http://www.iibc-global.org/toEIC/test/sw/about.html
5 教科書（Textbook） ペンシルベニア大学が作成・配布する教材
6 参考書（Reference） 【Listening スキルアップのための推奨ウェブサイト】 ・Science Insider（身近なトピックを解説する字幕付き動画） https://www.youtube.com/channel/UC9uD-W5zQHQuAVT2GdcLCvg ・Business Insider（ビジネスの話題を分かりやすく解説する動画） https://www.youtube.com/user/businessinsider ・TED Ed（アカデミックなトピックを解説する字幕付き動画） https://ed.ted.com/lessons ・News In Levels（レベル別音声とスクリプト付き面白ニュース） http://www.newsinlevels.com/ ・Scientific American 60-Second Science（サイエンス系ポッドキャスト） http://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/ ・VOA（平易な英語で聴けるアメリカのニュース） http://www.voanews.com/ ・CNN 10（10 分間のニュースダイジェスト） http://edition.cnn.com/specials/student-news-transcripts ・BBC Learning English（英語学習者向け） http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/ 【Writing スキルアップのための推奨ウェブサイト（オンライン講座は受講料無料）】 ・A Beginner’s Guide to Writing in English for University Study（University of Reading） https://www.futurelearn.com/courses/english-for-study ・Getting Started with Essay Writing（University of California, Irvine） https://www.coursera.org/learn/getting-started-with-essay-writing?specialization=academic-english ・Cambridge English Write & Improve https://writeandimprove.com/ （Cambridge English） 【英文アカデミック・ライティングの参考文献】 『英語アカデミック・ライティングの基礎』 一橋大学英語科 編著（研究社） 『英語論文の書き方入門』 迫 桂、徳永聡子 著（慶応義塾大学出版会） 『The Elements of Style』 William Strunk Jr. and E.B. Write（A Pearson Education Company） 『Concise Rules of APA Style』（American Psychological Association） 『ETS 公認トレーナーと勉強しよう！TOEFL iBT® テスト Web 準備講座学習者が書いたエッセイを、添削・アドバイスする「ウェブ公開授業」』 https://www.cieej.or.jp/toefl/webmagazine/ibt-class/
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） プログラム受講前・受講後の英文エッセイ、ペンシルベニア大学による評価による総合評価を行う。 （1）受講を希望する理由をテーマにした英文エッセイ（10%） ※書式指定なし （2）ペンシルベニア大学による評価（80%） （3）講座で習得した英語能力をテーマにした英文エッセイ（10%） ※書式指定なし
8 その他（Other） 最少催行人数（12 名）に満たなかった場合には、プログラムを実施しないことがある。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（ドイツ語） （ウィーン大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、ウィーン大学（オーストリア）で実施されるドイツ語コースに4週間参加するプログラムである。研修初日のプレイスメントテストの結果に応じて各学生のレベルに合ったクラスに参加することができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なドイツ語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2021年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 授業は全てドイツ語で行われ、少人数での参加型授業であり、教員と学生の距離が近い環境でドイツ語を身につけることができる。午前中（9:15～12:00）の授業終了後、語学力をさらに磨きたい学生は、ドイツ語会話、発音、合唱、ワルツなどの豊富なオプションクラス（有料）を受講することも可能である。 （3）事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）定員 20名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）費用 短期研修参加費として約43万円程度（滞在費、航空運賃、現地空港送迎などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） ・派遣先について事前に調べておくこと。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。					

5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社）
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（フランス語） （リヨン・カトリック大学）	1～4年	夏期集中	2単位	その他	横川 綾子
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、リヨン・カトリック大学（フランス）付属語学学校（ILCF）で開講される4週間のプログラムである。授業は少人数制で行われ、フランス語の読み書きばかりではなく、実践的な会話も十分に実践できる。ILCF主催の課外活動では、授業の一環として行われる地域文化研修であり、この地域の文化を理解するとともに、他国からの学生と交流を図りながらフランス語を磨くことができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2021年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 授業はA1（入門）、A2（初級）、B1（中級1）、B2（中級2）、C1（上級1）、C2（上級2）の6段階にクラスが分かれており、各学生のレベルに合わせて参加する。授業時間は週20時間、午前9時～12時、午後14時～16時である。（授業時間はレベルにより異なる。） （3）事後学習（全1回×100分） ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）定員 15名（最少催行人数10名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はないが、本プログラムへの参加は認める。 （3）費用 短期研修参加費として約49万円程度（滞在費、航空運賃、現地交通費を含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） ・派遣先について事前に調べておくこと。 ・事前学習の配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある）。
6 参考書（Reference） 『30秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『30秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』 安河内哲也 監修（IBCパブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』 齋藤佳子 著（宝島社）
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習の他に、渡航前オリエンテーションを実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（スペイン語） （バルセロナ自治大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） ＜概要（Course Summary）＞ 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、バルセロナ自治大学（スペイン）の語学研修機関 UAB Idiomes Barcelona にて実施される 4 週間の集中スペイン語コースである。UAB のスペイン語クラスは、短期間で効率的かつ実践的にスペイン語を習得するコースとなる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 ＜到達目標（Course Objectives）＞ 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑なスペイン語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2022 年 2 月上旬～3 月上旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 授業時間は、月曜日から金曜日までの午前 9 時から午後 1 時 30 分の 4 時間であり、週 20 時間となる。少人数制のクラスであり、9 段階のレベルにクラスが分かれ、各学生のレベルに合ったクラスでスペイン語を学ぶ。中級以上のレベルの受講者は、午後の授業と併せて、スペイン文化や経済等に関する授業を受講することができる。 （3）事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）定員 20 名（最少催行人数 10 名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約 40 万円程度（滞在費、航空運賃、現地交通費を含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10%） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10%） （3）派遣先教育機関における評価（80%）
8 その他（Other） 事前学習（1 回）の他に、渡航前オリエンテーションを 3 回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外語学研修（中国語） （北京大学）	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	水倉 亮
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座は、事前学習・海外大学での集中講義・事後学習を行うことにより、外国語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 事前学習において、異文化理解・異文化適応に関する理論を概観するとともに、海外学習準備のためのトレーニングを行う。事前学習を経て、海外において以下のような集中講義を受ける。 当研修は、北京大学（中国）にて、中国語運用能力の向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的としたプログラムである。中国語のブラッシュアップを図るとともに、語学以外に名所旧跡へのフィールドトリップや現地学生との交流など、中国文化に対する理解をさらに深めることができる。 事後学習においては、理論と体験の両面から、海外学習の成果を最大化する指導を行い、異文化対応能力の向上をはかる。また、外国語によるディスカッションのための学習を通じて、実践的な外国語運用能力の向上をめざす。 《到達目標（Course Objectives）》 参加者は、母国語以外の言語環境の中での生活を通じ、異文化社会への理解を深め、語学力を向上させることで、円滑な中国語でのコミュニケーション能力を高めることを到達目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) （1）事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外学習のための準備や心構え、カルチャーショックを含めて、異文化理解、異文化適応にかかわる基本的な概念を学ぶ。留学生活における注意点や現地での安全対策などを理解する。また、期末レポートの作成などについて説明を行う。 （2）現地研修 2022 年 2 月下旬～3 月下旬（予定）※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 各レベルにクラスが分かれ、授業は午前 8 時から 12 時までであり、「口語」「漢語」を中心に学ぶことができる。課外活動では、留学生交歓会が設定され、その他、中国に関する文化講座（「日中漢字の異同」（日本語）、「中国古代美術」（英語）予定）や万里の長城・盧溝橋等へのフィールドトリップなどに参加する。 （3）事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外学習の成果を最大化するため、自己分析ワークシートとともに帰国後の振り返りを行う。また、期末レポートを提出する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) （1）定員 20 名（最少催行人数 10 名） （2）履修要件 日常会話程度の語学力があること。 3 月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はない（本プログラムへの参加は認める）。 （3）費用 短期研修参加費として約 40 万円程度（滞在費、航空運賃などを含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					

4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べること。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。（オンライン上で事前に資料を閲覧・分析することを課すことがある。）
6 参考書（Reference） 『30 秒でできる！ニッポン紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『30 秒でできる！ニッポンの歴史紹介 おもてなしの英会話』安河内哲也 監修（IBC パブリッシング） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著（宝島社）
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、総合評価を行う。 （1）事前学習及び事後学習における貢献度（10％） ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 （2）期末レポート（10％） （3）派遣先教育機関における評価（80％）
8 その他（Other） 事前学習（1 回）の他に、渡航前オリエンテーションを 2 回実施予定。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期留学（語学）	1～4年	夏期/ 秋学期集中	1単位	その他	菊地 端夫
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） <<概要（Course Summary）>> 明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 <<到達目標（Course Objectives）>> グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容（Course Contents） 夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約 2 週間以上（実学習時間が 1350 分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。 対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （１）各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。 （２）単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは 7 月中旬、春期プログラムは 1 月中旬を予定） ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは 9 月卒業の学部生、春期プログラムは 3 月卒業の学部生への単位認定は行えません。 （３）参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
5 教科書（Textbook） 特に定めない。					
6 参考書（Reference） 『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著（角川マガジズ） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研） 『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）					
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。					
8 その他（Other） 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、					

またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型留学（語学）	1～4年	夏期/ 秋学期集中	2単位	その他	菊地 端夫
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） <<概要（Course Summary）>> 明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 <<到達目標（Course Objectives）>> グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容(Course Contents) 夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約4週間（実学習時間が2700分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。 対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （１）各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。 （２）単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは7月中旬、春期プログラムは1月中旬を予定） ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは9月卒業の学部生、春期プログラムは3月卒業の学部生への単位認定は行えません。 （３）参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparations and Review） 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
5 教科書（Textbook） 特に定めない。					
6 参考書（Reference） 『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著（角川マガジンス） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『英語で説明する日本の文化—これ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研） 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）					
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。					
8 その他（Other） 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定の中止、					

またはオンラインプログラムによる案内を行う可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (タイ・ボランティア)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィ ライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となることを目的としている。 今年度については、タイ北部のチェンライを中心に山岳民族（アカ族など）の村及びこれを支援するNGOの拠点に滞在し、約2週間のボランティア活動を行い、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。 また、現地では、世界各国から集う他の参加者に交じり、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。さらに英語以外に、簡単なタイ語、山岳民族の言語、ジェスチャー、日本語などを交えて意思疎通を図る。 2 授業内容 (Course Contents) 【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。 【ボランティア実習（約2週間）】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 タイ北部の山岳民族（アカ族など）の村などで活動するNGO等において、下記分野を例とした業務に約2週間従事する。 2022年2月中旬～2022年2月下旬実施予定。 - 山岳民族支援プロジェクトの手伝い - 村のコミュニティホールの建設や修繕 - 太陽電池設備の設置、学校での手洗い場やトイレの建設 - 学校や村のコミュニティでの日本語・日本文化紹介 など ※宿泊先施設の設備は、男女別滞在、シャワー（水）、トイレ（手動洗浄）である。 ※現地での滞在先は受入団体が用意する宿泊施設またはホームステイである。 【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。 3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少派遣人数10名） ※ 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する）。 (2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修の条件とする。					

なお、TOEIC 等のスコアを保持していない場合は、語学力のヒアリングにより十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可することがある。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 短期研修参加費として約29万円程度（滞在費、食費、研修実施にかかる現地交通費、往復航空運賃諸費用を含む）の負担が必要。 参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。 (4) その他 必修ではないが、「東南アジア理解講座（タイの言語と文化）」を履修することを強く勧める。
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 留学の成果は事前準備で決まるので、下記「6 参考書」の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫（講談社現代新書、2017） 『物語 タイの歴史：微笑みの国の真実』柿崎一郎（中公新書、2007） 『バナナと日本人：フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行（岩波新書、1982） 『消費大陸アジア：巨大市場を読み解く』川端基夫（講談社現代新書、2017） 『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著（明石書店、2003）
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前・事後学習への貢献度 (20%) (2) ボランティア先における勤務評価 (50%) (3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)
8 その他 (Other) 本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め、在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業、NGO、国際機関などで活躍することを期待する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (台湾・Cross-Cultural-Camp)	1～4年	秋学期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 日本経済と企業活動にとって、業種を問わず世界各地との関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本と世界の懸け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、台湾において実施されているプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が日本とは異なる環境で異文化理解を深め、海外へ視野を広げることを目的としている。 台湾中部の台中市において活動する社会的企業を拠点に滞在し、約1週間の農業体験及び現地小学校へ訪問しボランティア活動を行い、現地の人々との交流を通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。 また、現地では、英語を共通のコミュニケーションツールとして、能動的にコミュニケーションを図ることまたは積極的に諸活動を行っていく姿勢を鍛錬していく。					
2 授業内容(Course Contents) 【事前学習 (全1回)】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、異文化理解、異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。 さらに、ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。 【ボランティア実習 (約1週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 台湾中部の台中市において活動する社会的企業に拠点を置いて、下記に示した活動等を行う。 2021年11月初旬(大学祭休講期間を予定)。 - 伝統的な台湾の農作業ボランティア - 水耕農業活動の支援作業 - 現地小学校での日本語・日本文化紹介 - 木工品作成ワークショップなど ※宿泊先施設の設備は、共同部屋、男女別滞在、シャワー、トイレは完備である。 ※現地での滞在先は受入団体が用意する宿泊施設である。 【事後学習】(全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 15名(最少派遣人数10名) ※ 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたはOh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 程度の英語力を有することを履修の目安とする。 (3) 費用 短期研修参加費として約14万円程度(滞在費, 食費(朝食以外), 研修実施にかかる現地交通費, 往復航空運賃					

諸費用を含む)の負担が必要。 参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。
4 準備学習(予習・復習等)の内容(Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先(台湾・台中)について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書(Textbook) 特に定めない。
6 参考書(Reference) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著(角川マガジズ) 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版) 『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著(あさ出版) 『消費大陸アジア:巨大市場を読み解く』川端基夫 著(講談社現代新書) 『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫 著(講談社現代新書)
7 成績評価の方法(Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前・事後学習への貢献度 (20%) (2) ボランティア先における評価 (50%) (3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)
8 その他(Other) 本講義の受講をきっかけに世界への関心を高め、在学中に世界各国に対する理解と英語力を一層向上させて、在学中にその他の留学プログラムへの参加や学内における異文化交流活動への積極的な参加を期待する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (ベトナム・Study Tour)	1～4年	秋学期 集中	1単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィ ライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 日本経済と企業活動にとって、業種を問わず世界各地との関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本と世界の懸け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、ベトナム FPT 大学が実施する多国籍間の異文化理解、海外での学習に対する意欲向上と英語コミュニケーション力向上を目的として行われる Study Tour を本学用にカスタマイズして行うものであり、実施するアクティビティへの参加を通じ、参加者が日本とは異なる環境で異文化理解を深め、海外へ視野を広げることを目的としている。 ベトナム中部のダナンにおいて、FPT 大学に在学する学生との交流を通じた異文化理解及びベトナムの現地事情をテーマとした英語学習と合わせて、現地に進出する日系企業への訪問や歴史的都市へのツアーを通じて、異文化理解・適応能力の向上を図る。 また、現地では、英語を共通のコミュニケーションツールとして、能動的にコミュニケーションを図ることまたは積極的に諸活動を行っていく姿勢を鍛錬していく。					
2 授業内容 (Course Contents) 【事前学習 (2回)】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、異文化理解、異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。 さらに、ボランティア活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。 【ボランティア実習 (約1週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 ベトナム中部のダナンにある FPT 大学に拠点を置いて、下記に示した活動等を行う。 2021 年 11 月初旬 (大学祭休講期間を予定)。 - FPT 大学における英語クラス (歴史、ビジネス、食文化等現地事情をテーマとして) - ダナン及びホイアンツアー - 現地企業訪問 (日系企業を予定) - ベトナムクッキングワークショップ など ※宿泊先施設の設備は、2 名 1 室、男女別滞在、シャワー、トイレは完備である。 ※現地での滞在先は受入団体が用意する学生寮である。 【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 15 名 (最少派遣人数 10 名) ※ 受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する (選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点, TOEFL ITP435 点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準 2 級, 本学					

における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 程度の英語力を有することを履修の目安とする。 (3) 費用 短期研修参加費として約 17 万円程度 (滞在費, 食費 (朝食以外), 研修実施にかかる現地交通費, 往復航空運賃諸費用を含む) の負担が必要。 参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。	
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparations and Review)	事前に派遣先 (ベトナム・ダナン, ホイアン) について調べる。また, 事前学習の復習として, 配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で, 派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook)	特に定めない。
6 参考書 (Reference)	『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジズ) 『日本人が世界に誇れる 33 のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『日本人がいつまでも誇りにしたい 39 のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著 (あさ出版) 『消費大陸アジア: 巨大市場を読み解く』川端基夫 著 (講談社現代新書) 『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫 著 (講談社現代新書)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)	以下の諸点により, 最終評価する。 (1) 事前・事後学習への貢献度 (20%) (2) ボランティア先における評価 (50%) (3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)
8 その他 (Other)	本講義の受講をきっかけに世界への関心を高め, 在学中に世界各国に対する理解と英語力を一層向上させて, 在学中にその他の留学プログラムへの参加や学内における異文化交流活動への積極的な参加を期待する。 新型コロナウイルス感染症の影響により, 研修をオンラインで実施, または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
短期海外実習 (Exploring Social Innovation)	1～4年	秋学期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ≪概要 (Course Summary) ≫ 本講座は、米国スタンフォード大学内にある米国 NPO 法人 VIA (Volunteers in Asia) が提供する社会イノベーションをテーマとしたプログラムである。VIA はアジアとアメリカを繋ぐことを目的とした多彩な体験型教育プログラムを運営する 1963 年に設立された非営利団体である。 本研修では、スタンフォード大学デザインスクール (d. school) が提唱するデザイン思考を体系的に学ぶワークショップを始め、サンフランシスコ近郊の民間企業 (YouTube) や NPO 団体 (BAYCAT, Delancey Street Foundation 等) への視察訪問等が予定されている。 ※プログラム内容や訪問先は実施時期により一部変更となる可能性があります。 ※VIA について : https://viaprograms.org/ ≪到達目標 (Course Objectives) ≫ デザイン思考を学び、様々な社会的企業の役割や活動を理解することで、より良い社会を築き、社会問題の解決に導くための実践的方法論を体得することを目指す。更に、その後の学習やキャリアの方向性を見定め、他者貢献力や自己成長への意欲を高めることに繋げる。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全 1 回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、アメリカや日本における社会問題の調査、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。また、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 ※別途、VIA が定めるオリエンテーション (Skype) への参加や事前課題の実施が求められる。 (2) 現地研修 2022 年 2 月上旬～2 月中旬 (予定) ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 現地での研修はサンフランシスコ市内にて実施され、全体の学修活動時間は約 64 時間 (約 2 週間) である。スタンフォード大学 d. school が提唱するデザイン思考、社会問題を解決するための実践的方法論を学ぶためのワークショップ、サンフランシスコ近郊の民間企業や NPO 団体への視察訪問等が含まれる。 (3) 事後学習 (全 1 回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 5 名 (最少催行人数 1 名) ※授業希望者が定員を超える場合には、申込み時に提出する参加理由書により選考する (選考結果は Oh-o! Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400 点 (TOEFL iBT41 点、TOEFL ITP435 点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準 2 級、本学における前年度英語科目の成績評価係数 2.3) 以上に相当する英語力を有すること。 3 月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 プログラム参加費として約 47 万円程度 (滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む) の負担が必要。為替レ					

トの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 (4) その他 - 本プログラムは、少人数でのグループ発表や参加者間での意見交換が多く発生するため、プログラム参加に対する強い熱意と意欲、そして主体的に参加することが求められる。 - 本プログラムへの参加は本学での申込み後、現地プログラムディレクターによる電話インタビュー (Skype 面談) によって、最終的な参加可否が決定される。 プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ) 『発想する社会！ー世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法ー』トム・ケリー 著 (早川書房) 『なぜデザインが必要なのかー世界を変えるイノベーションの最前線ー』エレン・ラプトン 著 (英治出版) 『若者が社会を動かすために』税所篤快 著 (ベストセラーズ) 『Creative confidence: Unleashing the creative potential within us all』Kelley, T., & Kelley, D. 著 (Crown Business, 2013) Tim Brown. (n.d.). from https://www.ted.com/speakers/tim_brown (TED Talk) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度 : 20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 研修先 (VIA) による評価 : 70% (3) 帰国後に提出する最終レポート : 10%
8 その他 (Other) (1) 本プログラムは、社会問題の解決に興味のある学生、社会起業家を目指す学生、デザイン思考に興味のある学生、新しい視点を学びたい学生、国連ユースボランティア等の長期海外インターンシップへの参加を目指す学生、長期留学参加後の学びを深めたい学生などを履修対象とする。 (2) 現地研修では、日本、韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム等のアジアから優秀な学生が毎年参加している。研修期間中の宿舎は、VIA が指定するサンフランシスコ市内のホテルでの滞在となる。 (3) 本プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型短期海外実習	1～4年	夏期/ 秋学期集中	1単位	その他	菊地 端夫
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary) >> 明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 <<到達目標 (Course Objectives) >> グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) 夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約 2 週間以上（実学習時間が 1350 分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。 対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。 (2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは 7 月中旬、春期プログラムは 1 月中旬を予定） ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは 9 月卒業の学部生、春期プログラムは 3 月卒業の学部生への単位認定は行えません。 (3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。					
6 参考書 (Reference) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研） 『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）					
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。					
8 その他 (Other) 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定が中止さ					

れる可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (タイ・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィ ライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 日本経済と企業活動にとって、業種を問わずアジアとの関係は緊密になり、その重要性は今後もますます高まると考えられる。こうした状況の下、企業、NGO、国際機関、など多くの実務分野において、たくましい「現場力」を持って日本とアジアの懸け橋として活躍できる人材が求められている。 本講座は、タイにおいて根付いたプロジェクトへの参加を通じ、地域の社会発展に貢献すると同時に、参加者が海外で、実社会経験を積み将来アジアで活躍できるような人材となるため、約4週間の国際協力インターンシップ(実務研修)を行うものである。 タイの北部の都市であるチェンマイを中心に NGO 等の活動の中から参加者が自身の専門や関心分野に沿って受入先を選定し、約4週間の実務研修を行う。 また、現地では、世界各国から集う他の参加者に交じり、英語を共通のコミュニケーションツールとして実務研修を行うことによって、実践的な英語力の向上を図る。					
2 授業内容 (Course Contents) 【事前学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 事前学習は、インターンシップ活動に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解するとともに、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。 【インターンシップ実習 (約4週間)】 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 治安が良好なタイ北部の主要都市チェンマイ周辺で、各自の希望に基づいて、現地のNGO等が行う下記分野における補佐的業務に約4週間従事する。 2022年2月上旬～2022年3月上旬実施予定。 - 高齢化が進む村の復興支援活動 - 環境の維持・保全に関する活動 - インターナショナルスクールや幼稚園での英語教育 - 有名リゾートホテルでのゲストサービス - タイ王国動物園機構運営施設の広報活動 など ※現地での滞在先は民間寮または受入先が手配する宿泊施設を予定。					
【事後学習】 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実習の成果をまとめたレポートを報告する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 定員は特に定めない(最少派遣人数1名) (2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点, TOEFL ITP435点, IELTS5.0, 実用英語技能検定試験準2級, 本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修の条件とする。 なお、TOEIC等のスコアを保持していない場合は、語学力のヒアリングにより十分なコミュニケーション能力があると判定された場合に参加を許可することがある。(希望するインターン先との間で、Skype等により事前面接が実施される場合がある)。 3月卒業予定の学部生(早期卒業生を含む)への単位付与はありません(本プログラムへの参加は認める)。					

(3) 費用 短期研修参加費として約40万円程度(滞在費、研修実施にかかる現地交通費、往復航空運賃諸費用を含む)の負担が必要。 参加費用は為替等の影響により変動する可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項(ホームページ)を必ず確認すること。 (4) その他 必修ではないが、「東南アジア理解講座(タイの言語と文化)」を履修することを強く勧める。
4 準備学習(予習・復習等)の内容 (Preparations and Review) 留学の成果は事前準備で決まるので、下記「6 参考書」の内、最低1冊以上を熟読し、同国の文化、社会、外交など基本情報を学習するとともに東南アジア域内における同国の立ち位置及び自国との関係について理解を深めておくこと。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『入門 東南アジア近現代史』岩崎育夫(講談社現代新書, 2017) 『物語 タイの歴史: 微笑みの国の真実』柿崎一郎(中公新書, 2007) 『バナナと日本人: フィリピン農園と食卓のあいだ』鶴見良行(岩波新書, 1982) 『消費大陸アジア: 巨大市場を読み解く』川端基夫(講談社現代新書, 2017) 『タイを知るための60章 エリア・スタディーズ』綾部恒雄、林行夫 著(明石書店, 2003)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前・事後学習への貢献度 (20%) (2) インターンシップ先における勤務評価 (50%) (3) 帰国後に提出する最終レポートの評価 (30%)
8 その他 (Other) 本講義の受講をきっかけに東南アジアへの関心を高め、在学中に東南アジアに対する理解と英語を一層向上させて、卒業後には日本とアジアを結ぶ実務型リーダーとして企業、NGO、国際機関などで活躍することを期待する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (アメリカ・インターンシップ/ グローバルキャリアプログラム)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ≪概要 (Course Summary) ≫ 海外で働く日本人企業人によるビジネス研修を受講した後に、海外の日系企業及び日系団体において、約3週間のインターンシップに従事する実習プログラムとなる。 今年度は、ビジネス研修(ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会、キャリアディスカッション、パネルディスカッション)を受講した後に、ロサンゼルスの日系企業での企業実習により、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。 なお、業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。 ≪到達目標 (Course Objectives) ≫ 海外実務研修を通じ、就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くきっかけとする。さらに、その後の学習の方向性を見定め、意欲を高めることに繋げる。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、ホームステイに対する心構え、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 また、Project-Based Learning (PBL) 学習 (問題解決型学習) として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。 課題1: カリフォルニア州の経済問題 課題2: カリフォルニア州の移民問題 (2) 現地実習 2021年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 ビジネス研修 (4日間) 米国ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会を通じて、「グローバルキャリア」について考える。また、アメリカ人学生や日本人留学生とキャリアや価値観についてディスカッションを行う「学生フォーラム」を実施する。 企業実習 (14日間) ロサンゼルスにある約70社の日系企業のうちのいずれかで企業実習を受ける。業務内容は、事務所内での電話対応、社員との同行によるお客様訪問など、ビジネスの前線での幅広い体験を積む。 (3) 事後学習 (全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名(最少催行人数10名) ※アメリカ・インターンシップ2プログラム合わせた定員 ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する(選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o!Meiji システムで通知する)。 (2) 履修要件 TOEIC (IP含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。					

9月卒業予定の学部生 (早期卒業生を含む) への単位付与はありません (本プログラムへの参加は認める)。 (3) 費用 プログラム参加費として約62万円程度 (滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む) の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項 (ホームページ) を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先 (ロサンゼルス) について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ) 『信じる! 伝える! 実現する!』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) (1) 事前学習及び事後学習における貢献度: 20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 勤務報告書: 20% (3) 研修先における勤務評価: 30% (4) 帰国後に提出する最終レポート: 30%
8 その他 (Other) インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。英語力、志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。 また、プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (アメリカ・インターンシップ/ マーケティング型ビジネス 体験プログラム)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) 《概要 (Course Summary)》 海外で働く日本人企業人によるビジネス研修を受講した後に、海外の日系企業または日系団体において、約3週間のインターンシップ（企業へのマーケティング案の提案）に従事する実習プログラムとなる。 今年度は、ビジネス研修（ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会、キャリアディスカッション、パネルディスカッション）を受講した後に、ロサンゼルスの日系企業等から提示された課題を解決するための実習を行い、ビジネスにおける実践的な体験を積むことを目指す。 なお、業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等リサーチ活動では英語を使用する場合がある。 《到達目標 (Course Objectives)》 海外実務研修を通じ、就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くきっかけとする。さらに、その後の学習の方向性を見定め、意欲を高めることに繋げる。 2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 また、Project-Based Learning (PBL) 学習（問題解決型学習）として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。 課題1：カリフォルニア州の経済問題 課題2：カリフォルニア州の移民問題 (2) 現地実習 2021年8月～9月予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 ビジネス研修 (4日間) 米国ロサンゼルスで活躍する日本人企業人による講演会を通じて、「グローバルキャリア」について考える。また、アメリカ人学生や日本人留学生とキャリアや価値観についてディスカッションを行う「学生フォーラム」を実施する。 企業実習 (14日間) ロサンゼルスにある日系企業等から提示された課題（ミッション）に対し、関係各所へのリサーチ、消費者へのアンケート及び競合比較等解決策を検討し、最終的に企業等へのプレゼンテーションを行い、課題解決のためのプロセスを体験する。 (3) 事後学習 (全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。 3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少催行人数10名）※アメリカ・インターンシップ2プログラム合わせた定員 ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o!Meiji システムで通知する）。					

(2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。 9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 プログラム参加費として約62万円程度（滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先（ロサンゼルス）について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ) 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著 (角川マガジンス) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 実習報告書：20% (3) 研修先における評価：30% (4) 帰国後に提出する最終レポート：30%
8 その他 (Other) インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。英語力、志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。 また、プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィ ライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ 海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する実習プログラムとなる。ベトナム商業大学（予定）における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行った後に、ハノイの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ 就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 (2) 現地実習 2021年8月中旬～9月中旬予定 ※最終的な日程および内容は募集要項を確認すること。 ア 海外協力大学での学生交流 (1日間) ベトナム商業大学（予定）における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行う。 イ 企業実習 ハノイ市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を受ける。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少催行人数10名） ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する）。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。 9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 プログラム参加費として約35万円程度（滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 事前に派遣先（ハノイ）について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。					

5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference)
『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』今井昭夫 他著（明石書店）
『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス）
『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著（大和書房）
『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）
『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）
『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation)
以下の諸点により、最終評価する。
(1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20%
※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。
(2) 勤務報告書：25%
(3) 研修先における勤務評価：25%
(4) 帰国後に提出する最終レポート：30%
8 その他 (Other)
インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。
新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (ベトナム・インターンシップ)	1～4年	秋学期 集中	2単位	その他	タンシリトンチャイ、ウィ ライラック
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary)＞ 海外協力大学での学生交流の後に、海外の日系企業及び日系団体において、約4週間のインターンシップに従事する実習プログラムとなる。ホーチミン技術師範大学（予定）における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行った後に、ホーチミンの日系企業や団体から受入先を選び、ビジネスの最前線で幅広い体験を積むことを目指す。業務上使用する言語は基本的に日本語であるが、E-mail や電話対応等では英語を使用する場合がある。 ＜到達目標 (Course Objectives)＞ 就労の意義及び海外生活の実状を知ることにより、グローバル人材として活躍するために身に付けるべき知識や能力に気付くことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 (2) 現地実習 2022年2月中旬～3月中旬予定 ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 ア 海外協力大学での学生交流 (1日間) ホーチミン技術師範大学（予定）における学生交流による両国間のキャリア観についての学習を行う。 イ 企業実習 ホーチミン市内の現地企業・団体で約4週間にわたり企業実習を受ける。 (3) 事後学習 ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少催行人数10名） ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する）。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 400点 (TOEFL iBT41点、TOEFL ITP435点、IELTS5.0、実用英語技能検定試験準2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有することを履修条件とする。 3月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 プログラム参加費として約35万円程度（滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む）の負担が必要。為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 事前に派遣先（ホーチミン）について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。					

5 教科書 (Textbook)
特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『現代ベトナムを知るための60章【第2版】』今井昭夫 他著（明石書店） 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジズ） 『自分を動かし続ける力～元ヤンだった僕がカリフォルニア大学バークレー校で身につけた「最大限に成長する」習慣』鈴木琢也 著（大和書房） 『やっぱりすごいよ、日本人』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版） 『日本人が世界に誇れる33のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版） 『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』ジャーマン・ルース・マリー 著（あさ出版）
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 勤務報告書：25% (3) 研修先における勤務評価：25% (4) 帰国後に提出する最終レポート：30%
8 その他 (Other) インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。志望動機等を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修を中止する可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習 (オーストラリア・インターンシップ)	1～4年	夏期集中	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ≪概要 (Course Summary) ≫ 海外の大学での特別講座を受講した後に、海外の現地企業及び団体において、約4週間のインターンシップに従事する。 本学協定校であるシドニー工科大学（豪州・シドニー）（予定）で現地の学生と交流した後に、シドニー市内の受入企業・団体で約4週間にわたる企業実習を行う。なお、現地企業・団体で企業実習のため、業務上使用する言語は原則として英語となる。 ≪到達目標 (Course Objectives) ≫ 海外でのインターンシップを通じて、「異文化に対する洞察力」、「実践的な専門知識」、「語学力」、「能動的コミュニケーション能力」といった素養を養うことを目的とし、グローバル人材として世界で活躍する人材の育成を目指す。また、4週間の企業実習を通じ、日本社会とは異なる人間関係の中に身を置くことにより、様々なバックグラウンドを持つ人々の文化と価値観の多様性を受け入れることの重要性を認識する。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 海外実務研修のための準備や、ホームステイに対する心構え、異文化理解や異文化適応に関わる基本的な概念を学習する。ビジネス英語表現対策などを受講する。海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを理解する。 また、Project-Based Learning (PBL) 学習（問題解決型学習）として、学生は以下の課題から1つ選択し、現地調査の結果を事後学習で報告する。課題の詳細は、事前学習で説明する。 課題1：オーストラリアの環境問題 課題2：オーストラリアの移民問題 (2) 現地実習 2021年8月中旬～9月中旬予定 ※最終的な日程および内容等は募集要項を確認すること。 ア 海外協定校での研修 (1日間) シドニー工科大学（豪州・シドニー）（予定）の協力により実施される現地の学生との交流により、各自のキャリア意識を醸成する。 イ 企業実習 シドニー市内の現地企業・団体（一般企業、観光関連、ホテル業、幼児教育、日本語教師アシスタント、福祉施設等）で約4週間にわたり企業実習を受ける。実習先での業務内容は個人の英語力・スキルにより判断し決定される。 (3) 事後学習 (全1回) ※日程・実施場所は募集要項を確認すること。 本講座の最終総括を行う。各自が海外実務研修の成果をまとめたレポートを担当教員に提出し、最終プレゼンテーションを行う。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 定員 20名（最少催行人数6名）予定 ※受講希望者が定員を超える場合には、応募書類に基づき選考を行い、参加者を決定する（選考結果は、申込期間終了後に別途メールまたは Oh-o! Meiji システムで通知する）。 (2) 履修要件 TOEIC (IP 含む) 600点 (TOEFL iBT62点、TOEFL ITP503点、IELTS5.5、実用英語技能検定試験2級、本学における前年度英語科目の成績評価係数2.3) 以上に相当する英語力を有すること。					

9月卒業予定の学部生（早期卒業生を含む）への単位付与はありません（本プログラムへの参加は認める）。 (3) 費用 プログラム参加費（滞在費、食費、往復航空運賃諸費用を含む）は、約57万円である。参加人数や為替レートの変動などにより参加費が変更になる可能性がある。 プログラムの詳細については、募集要項（ホームページ）を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読んだ上で、派遣先へ渡航すること。
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。
6 参考書 (Reference) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティープン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ) 『信じる！伝える！実現する！』齋藤佳子 著 (宝島社) 『ネイティブ英語なんて必要ない！』吉田ちか 著 (角川マガジズ) 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著 (あさ出版) 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で！日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著 (語研) 『日本のことを1分間英語で話してみる』広瀬直子 著 (KADOKAWA)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、最終評価する。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 勤務報告書：20% (3) 実務研修先における勤務評価：30% (4) 帰国後に提出する最終レポート：30%
8 その他 (Other) インターンシップ実習先を選定するための面接を行う。インターンシップ申込書をもとに、現地の受入れ先の事情や条件、個々の英語力、経験、資格、履修経験を考慮した上での総合判断により実習先が決定される。 また、プログラム参加までに語学力を向上させるために、学部間共通外国語の履修や「海外留学プレ・ポスト英語プログラム」へ参加することを推奨する。 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修をオンラインで実施、または中止をする可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
単位認定型海外実習	1～4年	夏期/ 秋学期集中	2単位	その他	菊地 端夫
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) <<概要 (Course Summary) >> 明治大学国際教育センターが選定する海外大学等での文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習プログラムに参加し、留学先における現状および異文化理解の基礎を学ぶとともに実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 <<到達目標 (Course Objectives) >> グローバル化が進展する中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。本講座は、海外大学等での集中講座・研修、実習活動を通じて、より高度な外国語運用能力、異文化対応能力、問題発見・解決能力等を養うことを主たる目標とする。					
2 授業内容 (Course Contents) 夏季及び春季休業期間を利用した海外大学等（海外大学が実施する国内講座等含む）における約 4 週間以上（実学習時間が 2700 分以上）の文化講座、語学研修またはインターンシップ等の実習を行う。派遣プログラムによって、フィールドワークや文化交流活動等の課外活動に参加する機会もある。 対象プログラムの詳細については、本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」を確認すること。 https://www.meiji.ac.jp/cip/preferred_program.html また、派遣プログラム参加者は参加申込手続き完了後、所定の事前研修を受講することおよび研修終了後に参加報告書を提出することを必須とする。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。 (2) 単位認定（履修）希望者は本学ホームページ「国際連携・留学」の「国際教育センター推奨海外研修プログラム」に記載された手続きに従い履修登録を行うこと。（夏期プログラムは 7 月中旬、春期プログラムは 1 月中旬を予定） ・各学部の単位取扱いに基づき、単位認定を行います。 ・入学年度によって、単位認定科目名及び取扱いが異なります（推奨プログラムホームページ参照）。 ・過去に単位認定希望科目を修得している等により、単位認定が認められないことがあります。 ・過去に同一プログラムに参加している場合、単位認定は行えません。 ・夏期プログラムは 9 月卒業の学部生、春期プログラムは 3 月卒業の学部生への単位認定は行えません。 (3) 参加費用については、プログラム実施機関に確認をしてください（推奨プログラムホームページ参照）。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容 (Preparations and Review) 各派遣プログラムの所定の事前研修を必ず受講すること。また、派遣先の歴史、文化、政治、経済等について渡航前に調べ、理解を深めておくこと。					
5 教科書 (Textbook) 特に定めない。					
6 参考書 (Reference) 『ネイティブ英語なんて必要ない!』吉田ちか 著（角川マガジンス） 『やっぱりすごいよ、日本人』ルース・ジャーマン 著（あさ出版） 『英語で説明する日本の文化ーこれ一冊で! 日本のことが何でも話せる』植田一三・上田敏子 著（語研） 『日本のことを 1 分間英語で話してみる』広瀬直子 著（KADOKAWA）					
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 派遣先からの評価および帰国後の留学報告書に基づき、単位認定する。成績評価は認定（N）となる。					
8 その他 (Other) 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際教育センター推奨海外研修プログラムによる単位認定が中止さ					

れる可能性があります。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
長期海外実習	2～4年	秋学期	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標（Course Summary and Objectives） 《概要（Course Summary）》 本講座は、海外実務研修を体験する「短期海外実習」、「海外実習」の継続・発展型として実施される、海外でのより長期の実践的学習（実務実習）を行う講座であり、学生は、世界の平和と開発を支援するための国際機関である「国連ボランティア計画（The United Nations Volunteers）」を通じて、開発途上国における同機関事務所で実務実習を行う。 《到達目標（Course Objectives）》 この経験を通じ、グローバル人材に必要な国際社会や異文化に関する知識に加え、様々なバックグラウンドを持つ人々と対等に意見を交換し、人間関係を構築することができるチームワーク志向性等の国際感覚を培うことができる。 なお、本講座の学習効果を高めるために、派遣前研修や派遣期間中の実務教育を行う「海外実習課題研究」を同時に履修することを履修条件とする。 異文化に対する洞察力、実践的な専門知識、語学・能動的コミュニケーション能力といった素養を養うことを目的とし、海外での実践的学習（実務実習）への参加を通じてグローバル人材として世界で活躍する人材の育成を目指す。					
2 授業内容(Course Contents) 開発途上国における同機関事務所等で約5ヵ月間にわたりインターンシップ実習を行う。 具体的には、現地の国連開発計画（UNDP）、国連ボランティア計画（UNV）、国連広報センター（UNIC）等が実習先となる。1日の勤務時間は、週5日の約6時間程度（週30時間程度）。現地での滞在先は、原則として、国連ボランティア計画の各現地オフィスが指定する民間アパートである。					
3 履修上の注意（Prerequisites and registration requirements） （1）受講定員 特に定めない。 （2）履修要件 書類選考及び面接選考の上、学内推薦候補を決定する。 学内推薦候補者は、希望する国際機関の現地事務所担当者による選考を経て、派遣が決定する。なお、応募のために以下の要件を満たす必要がある。 ✖ 2021年9月1日時点で20歳以上であること。 ✖ TOEFL ITP500点（TOEFL iBT60点、TOEIC 585点、IELTS 4.5）以上の英語力を有すること。 ✖ 最低限のPCスキル（Word／Excel／Power Point）を有すること。 ✖ 開発途上国の厳しい異文化環境において生活する上で心身ともに健康上の問題がないこと及び困難な状況に対応できること。 ✖ 日本国籍を有する者。 ✖ 本プログラムに係る全てのスケジュールに参加できる者。 ✖ 開発途上国へ2週間以上の渡航経験（旅行、ボランティア活動等）を持つことが望ましい。 ✖ 国内外でのボランティア経験があることが望ましい。 ✖ 本学の外国留学に関する広報活動及び本プログラムに係る各種調査に卒業後も含め協力できること。 なお、「海外実習課題研究（国連ユースボランティア・プログラム）」との同時履修となる。 （3）費用 渡航費や一定の現地生活費等を含む参加費用は、外務省及び国連ボランティア計画が負担するため、免除となる。					

国内研修に係る費用、海外旅行保険、予防接種および出入国のために必要な費用は自己負担となる。 （4）派遣日程 2021年9月中旬～2022年2月（渡航日及び帰国日は、派遣国により異なる。） プログラムの詳細については、https://www.meiji.ac.jp/cip/chouki_kaigaijisshu/index.html を必ず確認すること。
4 準備学習（予習・復習等）の内容（Preparation and Review） 事前に配布する地域研究シートを使用し、派遣先について調べる。また、事前学習の復習として、配布資料事前に配布する英語の報告書やレポートの書き方（英語表現・構成）の資料を熟読し理解すること。配布資料をもとに、毎週提出を義務付けている勤務報告書を作成する。担当教員によるフィードバックを参考にし、英語表現や構成を振り返り、次週の勤務報告書の作成に活かすこと。
5 教科書（Textbook） 特に定めない。
6 参考書（Reference） 特に定めない。
7 成績評価の方法（Grading and Evaluation） 以下の諸点により、最終評価する。 （1）勤務報告書（Weekly Report）の評価：30％ （2）中間レポートの評価：20％ （3）帰国後の最終報告書及びプレゼンテーション：50％
8 その他（Other） 派遣国については、治安が比較的良く政情も安定しており、国連職員が単身赴任ではなく家族と共に転勤が可能な地域と指定している。 新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムの一部または全ての期間をオンラインで活動することになる可能性がある。2021年度のプログラム実施に関しては、募集要項を確認すること。

科目名	配当学年	開講期	単位数	キャンパス	担当者
海外実習課題研究	2～4年	秋学期	2単位	その他	仲 谷 ちはる
1 授業の概要・到達目標 (Course Summary and Objectives) ＜概要 (Course Summary) ＞ 日本と全く異なる社会で就業体験をすることに伴い、「長期海外実習」派遣前の実務教育に特化した課題研究科目を履修することにより、海外での長期の実務実習をより効果的なものとする事が期待できる。 本講座は、国連ユースボランティア・プログラムの派遣前に、約10日間の補強研修及び渡航前研修を実施し、同プログラム期間中に必要となる画像・動画編集、英文議事録の書き方等のスキルを養成すると同時に、国際開発論、教育開発論などの講義を通じて現場の状況を把握し柔軟な対応ができる即戦力を育成する。 なお、本講座の学習効果を高めるために、本課題研究の内容に沿った海外での長期の実務実習を行う「長期海外実習」を同時に履修することを履修条件とする。 ＜到達目標 (Course Objectives) ＞ 多様な価値観を持った人々との人間関係及びチームワーク構築の重要性や自己の職業観を認識し、日本国内に留まらず、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指す。					
2 授業内容 (Course Contents) (1) 事前学習 (全2回) 第1回目 (2021年7月中旬実施) は、海外での長期の実務実習に参加するための準備として、現地の文化、滞在方法、プロジェクトの目的や現地活動の概要について理解する。 第2回目 (2021年9月上旬実施) は、海外生活や渡航時の注意点、現地での安全対策などを学ぶ。また、補強研修及び派遣前研修で習得したことについて振り返り、発表する。 (2) 課題研究 「長期海外実習」派遣前に、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターが主催する渡航前国内研修 (関東会場および関西会場) において約10日間の補強研修及び派遣前研修の講座を受講する。 (3) 事後学習 (全1回) 課題研究のまとめ (派遣学生全員が帰国後の2022年3月に実施予定) 本講座の最終総括を行う。課題研究で学んだことをレポートにまとめ、報告する。					
3 履修上の注意 (Prerequisites and registration requirements) (1) 受講定員 特に定めない。 (2) 履修要件 「長期海外実習」において実施する長期の海外実習プログラムへの派遣・参加が決定した学生を対象とするため、応募要件や語学レベル等については、「長期海外実習」における基準に準拠する。 なお、「長期海外実習 (国連ユースボランティア・プログラム)」との同時履修となる。 (3) 費用 補強研修・派遣前研修費として、5万円程度の負担が必要。また、関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センターへの交通費及び宿泊費等の実費、予防接種費の実費 (派遣国により異なる) 及び、海外旅行保険および出入国のための費用が別途必要。					
4 準備学習 (予習・復習等) の内容 (Preparation and Review) 事前に配布する「2021年度派遣の手引き (明治大学)」を読み、不明な部分があれば、授業で質問すること。 事前学習及び課題研究の復習として、配布資料や参考書の該当箇所を読むこと。					
5 教科書 (Textbook) 関西学院大学国連ユースボランティア派遣日本訓練センター指定の教科書となる。					

6 参考書 (Reference) 『TED トーク 世界最高のプレゼン術』ジェレミー・ドノバン 著 (新潮社) 『パリの国連で夢を食う。』川内有緒 著 (イースト・プレス) 『えんぴつの約束ー一流コンサルタントだったぼくが、世界に200の学校を建てたわけ』アダム・ブラウン 著 (飛鳥新社) 『世界で生きるカー自分を本当にグローバル化する4つのステップー』マーク・ガーゾン 著 (英治出版) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』スティーブン・ルーカス 著 (SB クリエイティブ)
7 成績評価の方法 (Grading and Evaluation) 以下の諸点により、本学担当教員が最終評価を行う。 (1) 事前学習及び事後学習における貢献度：20% ※授業の中で自主的に課題を発表し、積極的に発言をすることを評価する。 (2) 最終レポートによる評価：80%
8 その他 (Other)